

サル者ハ國民兵役ニ服セシム

第一 體格完全且強壯ナルモ身幹未タ定尺ニ滿サル者

第二 疾病中又ハ病後ニシテ勞役ニ堪ヘサル者

第十九條 公權ノ剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重輕罪ノ爲メ訊問若クハ拘留中ノ者ハ徵集ヲ延期ス

第二十條 徵集ニ應スルトキハ其家族自活シ能ハサルノ確證アル者ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ延期ス其事故三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ國民兵役ニ服セシム但分家又ハ絶家廢家再興ノ故ヲ以テ本條ニ當ル者其他自活シ能ハサル事故ヲ作爲シタル者ハ其願ヲ許可セス

第二十一條 第十一條ニ掲クル學校ニ在校ノ者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十六歳迄徵集ヲ猶豫ス其事故滿二十六歳迄ニ止ミ又ハ二十六歳ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス但陸軍試驗委員ノ試驗ニ及第シタル者ハ一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十六歳迄徵集ヲ猶豫ス二十六歳迄ニ歸朝シ又ハ二十六歳ヲ過キ歸朝スル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス但陸軍試驗委員ノ試驗ニ及第シタル者ハ一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第二十二條 餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル官吏及市町村長、助役及收入役ハ豫備兵ニ在ルト後備兵ニ在ルトヲ間ハス勤務演習簡閲點呼ノ爲メ召集スルコトナシ

法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員其開會中亦同シ

第四章 豫備徵員

第二十三條 抽籤番號ノ順序ニ從ヒ毎年所要ノ現役兵員ニ超過スル壯丁ハ一箇年間十二月一日起算ス豫備徵員トシ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ又ハ其年徵集ノ兵員缺クルトキ之ヲ徵集ス

第二十四條 豫備徵員ニシテ其期限内ニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第五章 雜則

第二十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ滿二十歳ト爲ル者ハ其年ノ一月一日ヨリ同月三十一日迄ニ書面ヲ以テ戸主ニ非サル者ハ其戸主ヨリ本籍ノ市町村長ニ届出可シ但二十歳未滿ニシテ現役ヲ終ヘタル者又ハ現役中ノ者ハ本條ノ届出ヲ爲スニ及ハス

第二十六條 徵集ハ本籍所在ノ徵募區ニ於テスルヲ例トス他ノ徵募區ニ寄留スル者ハ願ニ由リ其區ニ於テ徵集ニ應スルコトヲ得

第二十七條 疾病又ハ犯罪等ノ爲メ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ翌年之ヲ徵集ス

第二十八條 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐偽ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潜匿シタル者又ハ正當ノ故事ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス

第二十九條 現役年期ノ計算ハ總テ其入營スル年ノ十二月一日ヨリ起算シ豫備役及後備役年期ノ計算ハ其轉役スル年ノ十二月一日ヨ

リ起算シ第六條ニ依リ延期シタル者モ其起算法亦同シ但禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡若クハ失踪シタル者其刑期中及逃亡失踪中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス

第六章 罰則

第三十條 第二十五條ノ届出ヲ爲サル者及正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潜匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐偽ノ所爲ヲ用ヒタル者ハ一月以上一年以上以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七章 附則

第三十二條 本令ハ明治二十二年一月ヨリ施行ス但第二十五條ノ届出期限ハ明治二十二年ニ限り三月一日ヨリ同月十五日迄トス

第三十三條 本令ハ北海道ニ於テ函館江差福山ヲ除クノ外及沖繩縣並東京府管下小笠原島ニハ當分之ヲ施行セス

第三十四條 本令中市町村長トアルハ市制町村制ヲ實施スル迄ノ間  
戸長ノコトトス

第三十五條 舊令第十一條ニ依リ一箇年間陸軍現役ニ服シタル者ハ  
本令第十一條ニ照シ二箇年間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシメ  
其豫備役二箇年ヲ終リタル者ハ直ニ後備役ニ服セシメ通シテ七箇  
年トス

第三十六條 舊令第十七條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延  
期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セ  
シム

第三十七條 舊令第十八條第二項ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵  
集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役  
ニ服セシム

第三十八條 舊令第十八條第七項及第二十一條ニ依リ徵集猶豫ニ屬  
シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルト

キハ國民兵役ニ服セシム

第三十九條 舊令第十八條第三項ノ生徒ニシテ第一豫備徵員ト爲リ  
仍ホ在校ノ者ハ該徵員タルヲ止メ滿二十七歳迄徵集ヲ猶豫シ其  
事故二十七歳ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム  
第四十條 第二十六條第三十七條第三十八條及第三十九條ニ掲クル  
者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集  
ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十一條 舊令第十八條第三項若クハ第十九條ニ依リ徵集猶豫ニ  
屬シ在校ノ者ハ其事故六箇年以内ニ止ミタルトキ又ハ六箇年ヲ過  
クルモ仍ホ止マサルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ  
志願スルコトヲ得

第四十二條 舊令第三十條ニ依リ補充員ト爲リタル者ハ之ヲ豫備徵  
員ト爲シ一箇年間明治二十一年十二月一日ヨリ起算スニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ  
服セシム

第四十三條 舊令第三十一條ニ依リ第一豫備徵員ト爲リ在校セサル者及舊令第三十二條ニ依リ第二豫備徵員ト爲リタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム補充員ヨリ第一豫備徵員ト爲リタル者亦同シ

第四十四條 明治十二年第四十六條布告徵兵令ニ依リ國民軍ノ外免役又ハ平時免役若クハ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム

第四十五條 舊令第八條ニ依リ海軍兵ト爲リタル者ノ服役期限ハ同令第三條及第四條ニ依ル

第四十六條 第三十六條第三十七條第三十八條ニ掲クル徵集延期ノ者及第三十九條第四十一條ニ掲クル徵集猶豫ノ者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ前項ノ届出ヲ爲サ、ル者及本令施行前舊令第三十五條第三十六條ノ届出ヲ爲サスシテ本令施行後ニ於テ發覺スル者ハ本令第三十條ニ依リ處分ス可シ

○官立公立師範學校ニテ二十二年中卒業ノ生徒徵兵猶豫方  
明治二十二年三月  
 法律第八號

朕官立府縣立師範學校卒業生ノ徵兵ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官立府縣立師範學校生徒ニシテ明治二十二年中ニ卒業スル者ハ徵兵令第四十一條ニ據ラス直ニ官立公立學校ノ教員ト爲ルコトヲ得其教員ト爲リタル者ハ同令第三十七條ニ據リ處分スヘシ

○徵兵事務條例明治二十二年二月  
 勅令第十三號

朕徵兵事務條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
 徵兵事務條例

第一章 徵兵區

第一條 徵兵區ハ師管旅管及大隊區又ハ警備隊區ノ區域ニ從フ

第二條 大隊區及警備隊區ハ更ニ之ヲ徵募區ニ分ツ

第三條 徵募區ハ一郡又ハ一市ヲ以テ一區ト爲ス

一市ニシテ二大隊區ニ分屬スルモノハ各別ニ一區ト爲ス  
數郡ニ一郡役所ヲ置クモノハ數郡ヲ併セ一區ト爲ス其島廳ヲ  
置クモノ亦同シ

第四條 常備歩兵各聯隊ノ兵員ハ其旅管内最寄ニ大隊區ヨリ徵  
集スルヲ例トシ不足スルトキハ同管内他ノ大隊區ヨリ補充ス  
其他ノ兵員ハ其師管ヨリ徵集ス

近衛歩兵隊及騎兵隊ノ兵員ハ各師管ヨリ其他ノ兵員ハ第一師  
管ヨリ徵集ス

警備隊ノ兵員ハ其警備隊區ヨリ徵集ス

海軍兵員ハ各師管内沿海及島嶼ヲ包括スル大隊區ヨリ徵集ス

第二章 徵兵官

第五條 徵兵官ハ總理徵兵官師管徵兵官旅管徵兵官大隊區徵兵

官及警備隊區徵兵官トス

第六條 總理徵兵官ハ内務大臣及陸軍大臣ヲ以テ之ニ充テ全國  
徵兵ノ事ヲ統轄ス

第七條 師管徵兵官ハ師管内府縣毎ニ師團長及府縣知事ヲ以テ  
之ニ充テ師團長ヲ首座トシ其管内府縣徵兵ノ事ヲ統轄ス

第八條 旅管徵兵官ハ旅管内府縣毎ニ旅團長及府縣書記官ヲ以  
テ之ニ充テ旅團長ヲ首座トシ其管内府縣徵募事務ヲ執行ス

第九條 大隊區徵兵官ハ大隊區内徵募區毎ニ大隊區司令官及島  
司若クハ郡市長ヲ以テ之ニ充テ警備隊區徵兵官ハ警備隊司令  
官及島司若クハ郡長ヲ以テ之ニ充テ大隊區司令官又ハ警備隊  
司令官ヲ首座トシ其區内徵募準備事務ヲ執行ス

第十條 毎年徵募事務及徵募準備事務執行中ハ陸軍二等軍醫正  
一名並府縣徵兵參事員四名ヲ以テ旅管徵兵委員ヲ組織シ又陸  
軍一二三等軍醫一名並郡市徵兵參事員又ハ島嶼徵兵參事員各

四名ヲ以テ大隊區徵兵委員又ハ警備隊區徵兵委員ヲ組織シ第十四條第十五條ノ事務ヲ掌ラシム

第十一條 府縣徵兵參事員ハ府縣會常置委員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 郡市島嶼徵兵參事員ハ其郡市島嶼内ノ選舉ヲ以テ之ヲ定ム

郡市島嶼徵兵參事員ノ選舉人被選舉人資格選舉ノ方法及任期ハ總テ府縣會議員ノ例ニ依ル但被選舉人ハ其郡市島嶼内ニ現住ノ者ニ限ル

第十三條 府縣徵兵參事員及郡市島嶼徵兵參事員ハ互ニ兼ヌルヲ得ス

第十四條 陸軍二等軍醫正ハ旅管内徵兵身體検査ノ事務ヲ掌リ陸軍一三三等軍醫ハ專ラ身體ノ検査ニ從事ス

第十五條 府縣郡市及島嶼徵兵參事員ハ徵集延期及徵集猶豫ニ

關スル事件並徵兵令第二十八條ニ關スル事件ヲ審議シ意見ヲ徵兵官ニ具申スルヲ任トス但徵兵官ノ裁決ニ付可否ヲ議スルノ權ナキモノトス

第十六條 第十條ニ掲クル徵兵委員ノ外族團副官一名府縣屬若干名地方徵兵醫員一名ヲ以テ旅管徵兵署事務員トシ大隊區書記又ハ警備隊書記各一名島廳附府縣屬又ハ郡市書記各一名地方徵兵醫員若干名ヲ以テ大隊區徵兵署事務員又ハ警備隊區徵兵署事務員トス

第十七條 旅團副官府縣屬大隊區書記警備隊書記島廳附府縣屬及郡市書記ハ徵兵署ノ庶務ニ從事ス

第十八條 地方徵兵醫員ハ府縣知事ノ選ヲ以テ之ヲ命ス陸軍醫官ノ指揮ヲ受ケ身體検査ノ事ヲ補助ス

第三章 配賦

第十九條 毎年徵集ス可キ新兵ノ員數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 陸軍大臣ハ第十九條ノ勅令ニ基キ近衛新兵及海軍新兵ノ要員ヲ各師管ニ配賦ス

第二十一條 師團長ハ新兵ノ要員ヲ各旅管ニ旅團長ハ之ヲ各大隊區ニ大隊區司令官ハ之ヲ各徵募區ニ配賦ス

第二十二條 新兵ノ配賦ハ壯丁ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム

第四章 徵募準備

第二十三條 町村長ハ毎年徵兵令第二十五條ノ屆書ヲ戶籍簿ニ照較シ壯丁名簿ヲ作り三月一日迄ニ島司又ハ郡長ニ差出シ司郡長ハ點檢ノ後之ヲ一徵募區ニ取纏メ前年假決ノ諸名簿ト共ニ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ提出ス可シ

市長ハ前項ノ例ニ依リ壯丁名簿ヲ作り前年假決ノ諸名簿ト共ニ之ヲ大隊區徵兵署ニ提出ス可シ

第二十四條 毎年徵募準備事務執行ノトキハ各徵募區ニ大隊區

徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ヲ設ク

土地廣濶壯丁多數ノ徵募區ニ在テハ數箇ノ徵兵檢查所ヲ設クルコトヲ得

第二十五條 大隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ島司郡市長ニ協議シ徵兵署及檢查所巡回日割ヲ定メ之ヲ旅管徵兵管 申報ス可シ 島司郡市長ハ 檢查ノ日時、徵兵署及檢查所設置ノ場所ヲ豫メ其管内ニ告示ス可シ

第二十六條 兵役ノ適否ヲ定ムル爲メ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署及檢查所ニ於テ壯丁ノ身體檢查ヲ行フ其檢查ハ徵兵委員ノ面前ニ於テスルモノトス

第二十七條 大隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ壯丁ノ身體檢查ノ事ヲ監督シ兵種ノ選定ニ任ス

第二十八條 島司郡市長ハ徵集延期及徵集猶豫ニ關スル書類ノ調査及事實ノ審覈ニ任ス

第二十九條 壯丁ノ身體検査終ルトキハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ徵兵検査名簿徵集延期名簿及徵集猶豫名簿ヲ作ル可シ

第三十條 大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ徵集ヲ延期シ又ハ徵集ヲ猶豫ス可キモノト裁決シタルトキハ各其證書ヲ附與ス

第三十一條 徵募準備事務終ルノ後大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ検査名簿其他終決ヲ受ク可キ書類ヲ取纏メ旅管徵兵官ニ差出ス可シ但徵集延期及徵集猶豫ニ屬シタル者ハ其人員ヲ旅管徵兵官ニ報告シ其名簿ハ島司郡市長之ヲ保管ス可シ

第五章 徵募

第三十二條 毎年徵募事務執行ノトキハ旅管内府縣毎ニ旅管徵兵署ヲ設ク

第三十三條 旅團長ハ府縣書記官ニ協議シ徵兵署巡回日割ヲ定メ之ヲ師管徵兵官ニ申報シ又之ヲ大隊區司令官又ハ警備隊司

令官ニ達ス可シ

府縣書記官ハ抽籤ノ日時及徵兵署設置ノ場所ヲ島司又ハ郡市長ニ達シ島司郡市長ハ豫メ之ヲ管内ニ告示ス可シ

第三十四條 身體検査ニ合格シタル壯丁ハ徵集順序ヲ定ムル爲メ徵募區毎ニ體格ノ等位及兵種ヲ分チ旅管徵兵署ニ於テ抽籤ヲ行フ

抽籤ハ旅管徵兵委員及大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ノ面前ニ於テ抽籤總代人之ヲ爲スモノトス  
抽籤總代人ハ籤丁ノ選ヲ以テ徵募區毎ニ二名若クハ三名ヲ出スモノトス

第三十五條 島司郡市長ハ總代人ノ抽キタル籤番號ノ順序ニ依リ抽籤名簿二一本ヲ作り其一本ハ之ヲ旅管徵兵官ニ差出シ他ノ一本ハ之ヲ保管ス可シ

第三十六條 抽籤終ルトキハ旅管徵兵官ハ當籤番號ノ順序ニ從



ニ新兵徵募ノ處分ヲ爲シ其他ハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ヨリ差出シタル書類ニ就キ終決ノ處分ヲ爲シ新兵名簿豫備徵員名簿免役名簿及國民兵編入名簿ヲ作ル可シ

第三十七條 旅管徵兵署ニ於テ終決ノ處分ヲ爲シタル者ニハ各其證書ヲ附與ス

第三十八條 徵募事務終ルトキハ旅團長ハ旅管徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作り師團長ニ差出シ又新兵名簿ヲ各隊ニ交付シ抽籤名簿及豫備徵員名簿ヲ大隊區司令官ニ交付ス可シ  
近衛新兵名簿ハ近衛都督ニ海軍新兵名簿ハ鎮守府司令長官ニ送致ス可シ

免役名簿及國民兵編入名簿ハ府縣廳ニ備置ク可シ

第三十九條 師團長ハ師管徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作り陸軍大臣ニ差出シ陸軍大臣ハ全國徵兵表ヲ作り奏上ス可シ

第六章 裁決

第四十條 裁決ハ分テ假決及終決ノ二種トス

第四十一條 假決ハ徵集延期及徵集猶豫ノ事ヲ裁決シ終決ハ新兵徵募豫備徵員及國民兵編入並免役ノ事ヲ裁決ス

第四十二條 假決ハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官之ヲ爲シ終決ハ旅管徵兵官之ヲ爲ス

第四十三條 壯丁若クハ其家族ニ於テ徵兵令第二十條第二十一條第二十八條ニ關スル大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ旅管徵兵官ニ旅管徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ師管徵兵官ニ師管徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ總理徵兵官ニ訴願スルコトヲ得但訴願ノ爲メニ裁決ノ執行ヲ停止セス

本條ノ訴願ハ裁決書ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ爲ス可シ其期日ヲ過クルモノハ受理セス

第四十四條 徵兵官ノ裁決ニ對シ訴願スル者ハ其裁決ヲ爲シタ

ル徴兵官ニ其由ヲ届出可シ

第四十五條 第四十三條ノ訴願ヲ爲サントスル者ハ其願書ニ同  
徴募區内其年徴集ニ應ス可キ壯丁ノ戸主三名ノ保證書ヲ添フ  
可シ

第四十六條 徴兵官ノ裁決ニ對シテハ行政裁判所ニ出訴スルコ  
トヲ許サス

第七章 新兵

第四十七條 新兵入營期日ハ毎年十二月一日トス但疾病犯罪其  
他ノ事故ニ由リ十二月一日ニ入營シ難キ者ハ同月三十一日迄  
ニ入營セシム

警備隊諸兵及輜重輸卒ノ入營期日ハ別ニ定ムル所ニ據ル

第四十八條 新兵入營ノトキハ先ツ大隊區司令部若クハ便宜ノ  
地ニ召集シ其人員ノ多少ニ應シ大隊區副官若クハ書記ヲシテ  
入營地ニ引率セシム但新兵五人未滿ナルトキハ引率セシムル

ヲ要セス

近衛新兵及海軍新兵ハ人員ノ多少ニ拘ハラズ大隊區書記ヲシ  
テ其集合地ニ引率セシメ新兵受領委員ニ交付スルモノトス但  
大隊區書記出發後到着シタル者ハ直ニ入營地ニ單行セシム  
第四十九條 新兵入營ニ際シ父母ノ疾病危篤或ハ死亡ノ爲メ入  
營ノ延期ヲ願フ者アルトキハ大隊區司令官又ハ警備隊司令官  
ニ於テ十四日以内ノ延期ヲ許ス可シ

第五十條 新兵入營前ハ轉籍ノ爲メニ所屬ノ隊籍ヲ變更セス但  
師團ノ諸兵ニシテ師管ヲ異ニスルトキハ此限ニ在ラス

第五十一條 新兵入營前死亡シ若クハ疾病犯罪其他ノ事故ニ由  
リ十二月三十一日迄ニ入營シ難キ者ト認メタル者アルトキハ  
其徴募區ヨリ同兵種ノ豫備徴員ヲ抽籤番號ノ順序ニ從ヒ徴集  
シ同月同日迄ニ入營セシム若シ其徴募區ヨリ徴集スルコト能  
ハサルトキハ大隊區内他ノ徴募區ヨリ補フ其配賦ハ各徴募區

豫備徵員ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム

第五十二條 新兵入營前廢疾又ハ不具ト爲リ永久兵役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ旅團長ニ於テ兵役ヲ免ス

第五十三條 新兵入營前徵兵令第二十條ニ當ルヘキ事故ノ生スルトキキハ本人ノ願ニ由リ旅團長ニ於テ徵集ヲ延期ス

其願書ニハ市町村長ノ奥書證印ヲ受ケ之ニ同徵募區内新兵ノ戸主二名ノ保證書ヲ添ヘ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ヲ經テ旅團長ニ差出ス可シ

第五十四條 新兵入營前轉籍セントスル者ハ監視區長ニ届出可シ但監視區ヲ異ニスルトキハ轉籍後七日以内更ニ轉籍地監視區長ニ届出可シ

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第五十五條 新兵入營前寄留若クハ七日以上ノ旅行ヲ爲サント

スル者ハ監視區長ニ届出可シ

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第八章 豫備徵員

第五十六條 豫備徵員ヲ徵集スルニハ抽籤番號ノ順序ニ從フ其配賦ノ法ハ豫備徵員ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム

第五十七條 豫備徵員他ノ徵募區ニ轉籍スルトキハ新舊住地徵募區最高ノ抽籤番號ヲ率トシ比例ヲ以テ相當番號ノ上位ニ列セシム

第五十八條 豫備徵員轉籍セントスルトキハ監視區長ニ届出可シ但監視區ヲ異ニスルトキハ轉籍後十四日以内更ニ轉籍地監視區長ニ届出可シ

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第五十九條 豫備徵員ハ徵募年ノ十二月三十一日迄ハ監視區長ノ認可ヲ受ケスシテ寄留若クハ七日以上ノ旅行ヲ爲スコトヲ得ス其期限後ニ於テハ往先ヲ詳ニシ監視區長ニ届出可シ其復歸シタルトキ亦同シ

本條ニ違背シタ者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第九章 雜則

第六十條 徵兵令第十條ニ依リ現役ニ復センコトヲ志願スル者ハ其願書ニ戸主若クハ家族ノ承認書ヲ添ヘ十二月一日前自己ノ服役セント欲スル軍隊又ハ鎮守府ニ願出テ許可ヲ受ク可シ  
第六十一條 前條服役ノ許可ヲ受ケタル者ハ入營前本籍地ノ市町村長ニ届出可シ

第六十二條 徵兵令第二十條ニ當ル者ハ同徵募區内其ノ年ノ徵集ニ應ス可キ壯丁ノ戸主二名ノ保證書第二十一條第一項ニ當ル者ハ學校長ノ證明書同條第二項ニ當ル者ハ公使又ハ領事ノ

證明書ヲ以テ二月一日迄ニ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ願出可シ

其願書ニハ町村長ノ奥書證印ヲ受ク可キモノトス

第六十三條 徵兵令第二十六條ニ依リ他ノ徵募區ニ於テ徵集ニ應セント欲スル者ハ一月三十一日迄ニ本籍地ノ島司又ハ郡市長ニ願出可シ

島司又ハ郡長ニ差出ス願書ニハ本籍地町村長ノ奥書證印ヲ受ク可キモノトス

島司郡市長其願ヲ許可シタルトキハ其壯丁名簿ヲ添ヘ本人寄留地ノ島司郡市長ニ通知ス可シ

第六十四條 疾病傷痍或ハ犯罪等ニテ身體ノ検査ヲ受ケ難キ者及一年志願兵出願中ノ者ハ書面ヲ以テ検査當日迄ニ島司又ハ郡市長ニ届出可シ其疾病傷痍ノ者ハ醫師ノ診斷書ヲ添フ可シ島司又ハ郡長ニ差出ス願書ニハ町村長ノ奥書證印ヲ受ク可キ

モノトス  
本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十五條 疾病傷痍或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ書面ヲ以テ入營當日迄ニ監視區長ヲ經テ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ届出可シ其疾病傷痍ノ者ハ醫師ノ診斷書ヲ添フ可シ

其届書ニハ市町村長ノ奥書證印ヲ受ク可キモノトス  
本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十六條 徵兵署及徵兵検査所ノ諸費、壯丁及抽籤總代人ノ旅費、新兵入營ノ旅費、府縣郡市島嶼徵兵參事員ノ手當金旅費、地方徵兵醫員ノ給料旅費ハ官給ス

第六十七條 現役中疾病或ハ傷痍ニ依リ永久服役ニ堪ヘ難キ者

ハ近衛都督師團長又ハ鎮守府司令長官ニ於テ兵役ヲ免ズ其一ノ時服役ニ堪ヘ難キ者ハ豫備役ニ編入シ現役年期ヲ通シテ七箇年間服役セシム

第六十八條 現役中徵兵令第二十條ニ當ル可キ事故ノ生スルトキハ其家族ノ願ニ由リ近衛都督師團長又ハ鎮守府司令長官ニ於テ現役ヲ免シ豫備役ニ編入ス但現役年期ヲ通シテ七箇年間服役セシム

其願書ニハ市町村長ノ奥書證印ヲ受ケ之ニ同徵募區内現役兵ノ戶主二名ノ保證書ヲ添ヘ大隊區司令官又ハ警備隊司令官及旅團長ヲ經テ近衛都督師團長又ハ鎮守府司令長官ニ差出ス可シ

第十章 附則

第六十九條 北海道廳管下函館江差福山其他島嶼ニ於テ本條例中ノ條規ヲ實施スルコト能ハサルトキハ師團長地方長官協議

ノ上適宜ノ方法ヲ設クルコトヲ得

第七十條 徵兵令ヲ施行セサル地ニ寄留ノ者ハ同令第二十六條後段ノ例ニ準シ寄留地最寄ノ徵募區ニ於テ徵集ニ應スルコト得

第七十一條 徵兵令ヲ施行セサル地ヨリ施行ノ地ニ轉籍シタル者ハ其年又ハ翌年ノ徵集ニ應セシム但年齡二十六歳ヲ過クル者ハ此限ニ在ラス

第七十二條 本條例中市長ノ職務ハ市制ヲ實施スル迄ハ區長ニ於テ町村長ノ職務ハ町村制ヲ實施スル迄ハ戸長ニ於テ行フ可シ

第七十三條 第三條ノ徵募區ハ市制ヲ實施スル迄ハ區ノ境域ニ依ル

第七十四條 明治二十二年ニ限り第二十三條ノ壯丁名簿差出期限及第六十二條ノ願出期限ハ四月十五日迄トシ第六十三條ノ

願出期限ハ三月一日ヨリ同月十五日迄トス

○輜重輸卒現役期限及入營期限明治二十二年三月勅令第三十七號

朕陸軍輜重輸卒現役期限及入營期限ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍輜重輸卒ノ現役期限ハ一箇年トシ二期ニ分テ入營セシム其第一期ハ十二月一日第二期ハ四月一日第三期ハ八月一日トス疾病犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ次期ニ於テ入營セシメ其補缺員ハ次期入營ス可キ者ヲ繰上ケ其月ノ十日迄ニ入營セシム但第三期ニ在テハ豫備徵員ヲ以テ補缺ス

○陸軍一年志願兵條例明治二十二年二月勅令第十四號

朕陸軍一年志願兵條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍一年志願兵條例

第一條 徵兵令第十一條ニ據リ一箇年間陸軍現役ヲ志願スル者ハ兵種及衛戍地ヲ選ビ服役スルコトヲ得但服役中ノ費用官給ヲ受クル者ハ此限ニ在ラス

第二條 一年志願兵ノ被服裝具彈藥武器及屬具ハ其所屬部隊ヨリ現品ヲ給シ其被服裝具費彈藥費武器及屬具修理費トシテ金六拾圓ヲ納メシム但服役滿期ノ際精算ヲ爲シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

武器及屬具ハ服役滿期ノトキ之ヲ返納セシム

第三條 騎兵トシテ服役スル者ハ馬匹及馬具ヲ貸與シ其馬匹ニ係ル一切ノ費用及馬具修理費トシテ第二條ノ納金ノ外金八拾圓ヲ納メシム但服役滿期ノ際精算シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第四條 一年志願兵ハ日給ヲ給セサルモノトス  
徵兵署検査所往復旅費及入營退營旅費ハ一切自辨トス

第五條 一年志願兵ハ營外ニ居住シ通勤セシメ其居宅及食餌ノ費用ハ本人ノ自辨トス

若シ品行不正ノ事アルトキハ營内ニ居住セシメ食餌ハ該部隊ヨリ給シ其費用ヲ辨償セシム

第六條 身元貧困ニシテ費用ノ全部ヲ自辨スルコト能ハサル者

ニハ左ノ區別ニ從ヒ官費ヲ以テ服役セシム

一 居宅及食餌ノ費用ノ外自辨シ能ハサル者ニハ一般ノ兵卒同様部隊ヨリ被服裝具彈藥武器及屬具ヲ給與ス

二 武器及屬具ノ修理費ノ外自辨シ能ハサル者ニハ一般ノ兵卒同様部隊ヨリ食餌被服裝具彈藥ヲ給與シ管内ニ居住セシム

第七條 官費ヲ以テ服役ヲ許ス可キ一年志願兵ノ人員ハ毎年陸軍大臣之ヲ定ム

第八條 官費ヲ以テ服役セシム可キ壯丁前條ノ定員ニ超過シタ

ルトキハ年少ノ者ヨリ順次次年ニ回シ入隊セシムルコトアル可シ

第九條 一年志願兵タラント欲スル者ハ其願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ一月三十一日迄ニ島司又ハ郡市長ニ差出シ島司郡市長ハ本人身元資産ノ有無及犯罪ノ有無ヲ取調ヘ證明書ヲ作り之ヲ願書ニ添ヘ本人居住地所管ノ旅團長ニ差出ス可シ

一 戸主本人戸主ナハ其家族ノ承認書

此承認書ハ第二條第三條第五條第一項又ハ第六條第一項若クハ第二項ノ費用ヲ自辨スルコトヲ記スルモノトス

二 官立學校帝國大學及府縣立師範學校中學校若クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認めタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學理財學ヲ教授スル私立學校卒業ノ者ハ前項ニ掲クル承認書ノ外該學校ノ卒業證書

第十條 一年志願兵タラント欲スル者ニシテ一月三十一日迄ニ

第九條第二項ノ學校ヲ卒業セサルモ其年ノ九月三十日迄ニ卒業ス可キ者ハ卒業證書ニ換フルニ學校長ノ證明書ヲ以テ願出ルコトヲ得但卒業シタルトキハ直ニ卒業證書ヲ添ヘ旅團長ニ届出可シ

第十一條 第九條ノ志願者中學術ノ試験ヲ受ク可キ者ハ其人名書ヲ旅團長ヨリ師團長ヲ經テ監軍ニ呈シ監軍ハ之ヲ將校學校監ニ下シ將校學校監ハ之ヲ陸軍將校生徒試験委員ニ下付ス師團長ハ身體検査ノ時日ヲ定メ府縣知事ニ通達シ志願者ヲ召集シ其地所在ノ軍醫ヲシテ身體検査ヲ爲サシメ合格者ノ人名書ヲ陸軍將校生徒試験委員到著ノトキ交付ス

第十二條 陸軍將校生徒試験委員ハ志願者ノ身體検査ニ合格シタル者ノ學術ヲ試験シ試験書ヲ旅團長ニ送付ス

第十三條 學術ノ試験ヲ受ク可キ者ノ試験及合格格例ハ其時々監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス



第十四條 旅團長ハ試験ノ成績ニ依リ及第落第ヲ定メ之ヲ本人ニ通知シ其及第者ニハ併セテ認定證書ヲ附與ス

第九條第二項ノ卒業證書及第十條ノ證明書ヲ所持スル者ハ一般ノ徵兵ト同時ニ身體ノ検査ヲ爲シ其合格者ニハ認定證書ヲ附與ス但第十條ノ證明書ヲ所持スル者ノ認定證書ハ同條但書ノ届出ヲ爲シタルトキ之ヲ附與スヘシ

第十五條 一年志願兵認定證書ヲ附與シタル人名書ハ旅團長ヨリ大隊區徵兵官ニ送付ス可シ

第十六條 一年志願兵ノ入隊期日ハ毎年十二月一日トス

第十七條 一年志願兵認定證書ヲ受ケタル者ハ十一月二十日限リ第二條第三條第六條第二項ノ費用ヲ部隊ニ納ム可シ

第十八條 一年志願兵入隊シタルトキ若クハ次年回リト爲リタルトキハ本籍所管大隊區徵兵官ニ届出可シ

第十九條 一年志願兵入隊スルトキハ聯隊長獨立大隊ニ在テハ大隊長以下同シ

之ヲ部下某中隊ニ編入シ該中隊長ヲシテ教育ニ任セシム

第二十條 一年志願兵軍事學ノ教授ハ聯隊長部下大尉若クハ中尉ノ内一名ヲシテ之ヲ掌ラシム

第二十一條 一年志願兵ノ教育及軍事學ノ教授ニ就テハ聯隊長其責ニ任スルモノトス

第二十二條 一年志願兵ノ勤務及服裝ハ一般ノ兵卒ト異ナルコトナシ但營中雜役ヲ免シ又被服ニ特別ノ徽章ヲ附ス  
室内其他諸物品ノ掃除及馬匹馬具等掃拭ノ爲メ兵卒ヲ使役スルコトヲ得但馬匹馬具等ノ掃拭ヲ習得スル爲メニハ自ラ之ヲ爲スヲ要ス

第二十三條 一年志願兵中勤務ニ熟達シ且品行方正ニシテ豫備士官ノ教育ヲ授クルニ堪フ可キト認ムル者ハ入隊ノ日ヨリ起算シ六箇月ノ後上等兵トナシ特別ノ教育ヲ授ケ下士ノ勤務ヲ爲サシム

第二十四條 上等兵ト爲シタル者ハ服役滿期ノ際聯隊長ハ一年志願兵終末試験委員ヲシテ學科及實地上ノ試験ヲ爲サシメ之ニ及第シタル者ハ其成績ヲ近衛都督又ハ師團長步兵ハ旅團ニ長ヲ經テ具狀シ認可ヲ受ケ終末試験及第證書ヲ授與シ二等軍曹ニ任シ豫備後ニ編入ス

第二十五條 醫學藥學又ハ理財學若クハ商業學卒業證書ヲ所持スル者ハ步兵隊ニ獸醫學卒業證書ヲ所持スル者ハ騎兵隊砲兵隊又ハ輜重兵隊ニ於テ前半年間隊列勤務ヲ爲シ後半年間ノ初ニ於テ志願軍吏生志願軍醫生志願藥劑生又ハ志願獸醫生ト爲リ各専門ノ勤務ヲ練習スルコトヲ得志望ノ者ハ入隊ノ際學校ノ卒業證書ヲ以テ其由ヲ申立可シ  
獸醫學卒業證書ヲ所持シ志願獸醫生タラシコトヲ志望スル者ハ第三條ノ納金ヲ爲スニ及ハス

第二十六條 志願軍吏生志願軍醫生志願藥劑生及志願獸醫生ヲ

命スルニハ近衛又ハ師團監督部長若クハ軍醫長獸醫長ヨリ近衛都督又ハ師團長ノ認可ヲ請フ可シ

第二十七條 志願軍吏生志願軍醫生志願藥劑生及志願獸醫生ハ曹長同等ノ取扱ヲ受クルモノトス

第二十八條 志願軍吏生志願軍醫生志願藥劑生及志願獸醫生ト爲シタル者ハ服役滿期ノ際近衛又ハ師團監督部長若クハ軍醫長若クハ獸醫長一年志願兵終末試験委員ヲシテ實地ノ試験ヲ爲サシメ之ニ及第シタル者ハ其成績ヲ近衛都督又ハ師團長ニ具狀シ認可ヲ受ケ終末試験及第證書ヲ授與シ豫備役ニ編入ス  
終末試験ニ落第シタル者ハ曹長若クハ軍曹相當官ニ任シ豫備役ニ編入ス

第二十九條 近衛都督又ハ師團長ハ一年志願兵終末試験委員ヲ組織シ及其試験ノ方法ヲ定ム

第三十條 一年志願兵認定證書ヲ得タル者正當ノ事由ナクシテ

其年ノ十二月一日ニ入隊セサルトキハ一年志願兵ノ資格ヲ失フモノトス

第三十一條 戰時若クハ事變ニ際スルトキハ一年志願兵ト雖モ一般ノ兵卒ト同シク服從セシム

附則

第三十二條 明治二十二年ニ限り第九條ノ願出期限ハ三月十五日迄トス

第三十三條 第二條第三條ノ納金額ニ變更ヲ要スルトキハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

○試補及見習ノ一年志願兵ハ在職服役ス二十二年三月試補及判任官見習ニシテ一年志願兵トナル者ハ在職ノ儘服役スルコトヲ得  
但服役時日ハ實務練習ノ期限ニ算入セス有給者ニハ俸給ヲ給セサルモノトス

○徵兵令中餘人ヲ以テ代フ可カラサル官吏認可手續二十二年二月明治二十二年法律第一號徵兵令第二十二條ニ當ル餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル官吏ハ豫メ其官廳ヨリ内閣ニ具狀シ認可ヲ請フ可シ

○徵兵事務條例施行細則二十二年二月陸軍省令第一號  
徵兵事務條例施行細則左ノ通定ム

徵兵事務條例施行細則

第一條 條例第二十三條ノ壯丁名簿ハ附錄第一様式ニ依リ之ヲ作リ一市一町村チ一冊ト爲シ冊尾ニ其人員ノ總計ヲ記シ市町村長之ニ署名押印ス可シ

第二條 徵兵令第七條及第二十五條但書ニ當ル者ハ市町村長之ヲ調査シ人名書ヲ作り壯丁名簿ニ添附ス可シ

第三條 條例第二十五條ノ徵兵署及徵兵検査所巡回日割ヲ定ムル爲メ島司郡市長ハ壯丁名簿及前年假決ノ諸名簿ヲ調査シ其人員ヲ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ報告ス可シ

第四條 大隊區徵兵署警備隊區徵兵署及徵兵検査所ハ島司郡市長ニ於テ適當ノ家屋ヲ選定シ大隊區司令官又ハ警備隊司令官到著ノ上之ヲ開設ス可シ

徵兵検査所ハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官豫メ旅管徵兵官ヲ經テ師管徵兵官ノ認可ヲ受ケ一箇所概シ壯丁百人以上一日間ニ住復ヲ爲シ得ル里程内ノ地ニ設ク可シ

第五條 大隊區徵兵署警備隊區徵兵署及徵兵検査所巡回日割既

ニ定マルトキハ島司都市長ハ其徵募區内ニ於テ毎日検査ヲ受  
ク可キ壯丁ノ順序ヲ定メ之ヲ壯丁ニ達シ當日ニ至レハ市町村  
吏員ヲシテ壯丁ヲ引繼メ徵兵署又ハ徵兵検査所ニ出頭セシム  
可シ

第六條 壯丁ノ身體検査ヲ行フトキハ島廳附府縣屬郡市書記ハ  
壯丁ヲ呼出シ軍醫ハ徵兵検査規則ニ依リ身體ヲ検査シ體格ノ  
等位其他所要ノ件ヲ壯丁名簿及前年假決ノ諸名簿ニ記入シ大  
隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ差出ス可シ

體格ノ等位ハ甲乙丙丁ノ四種ニ分チ其甲乙兩種ヲ合格トシ丙  
種ヲ徵集延期トシ丁種ヲ不合格トス

第七條 身體検査ヲ行フニ當リ壯丁ヲシテ裸體ナラシムルトキ  
ハ勉メテ別室若クハ隔障内ニ於テス可シ

第八條 身體検査ノ際現役ニ服セシコトヲ志願スル者アルトキ  
ハ大隊區徵兵官ハ本人ノ身元ヲ調査シ其景況書ヲ添ヘ旅管徵  
兵官ニ具申ス可シ

其志願者ハ體格甲種ニシテ身元確實ト認ムル者ハ旅管徵兵官  
ニ於テ之ヲ許可スルコトヲ得

第九條 身體検査終ルノ後大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ  
合格者ヲシテ抽籤總代人ヲ選ハシメ其人名ヲ旅管徵兵官ニ報  
告ス可シ

第十條 徵兵令第十八條第十九條及第二十條ニ依リ徵集延期ニ  
屬シ第二十一條ニ依リ徵集猶豫ニ屬スル者ハ大隊區徵兵署又

ハ警備隊區徵兵署ニ於テ附錄第二様式ニ依リ徵集延期證書徵  
集猶豫證書ヲ作り市ハ市長ヨリ本人ニ附與シ郡又ハ島嶼ニ在  
テハ町村長ヲシテ本人ニ附與セシム可シ

徵兵令第二十條第二十一條ノ願ヲ許可セサル者ニハ願書ニ裁  
決ノ趣旨ヲ記載シ前項ノ例ニ依リ本人ニ附與ス可シ

第十一條 陸軍諸兵ニ編入ス可キ者ハ左ノ項目ニ依リ之ヲ選フ  
可シ

- 一 歩兵ハ身體強健ニシテ能ク勞力及遠足ニ堪ユル者
- 二 騎兵ハ成ル可ク馬匹ノ使用ニ慣レ體格ハ輕捷ニシテ筋肉  
肥滿ニ過キサル者
- 三 砲兵ハ體力強大ニシテ視力清明ナル者
- 四 工兵ハ諸職工中殊ニ工兵ノ作業ニ適當シ臂力アル者
- 五 輜重兵及輜重輸卒ハ成ル可ク馬匹ノ使用ニ慣レ且臂力アル  
者
- 六 職工ハ現ニ其職ニ從事シ又ハ嘗テ其職ニ從事セシ者

近衛諸兵ハ甲種合格ニシテ品行方正ノ者ヲ選フ可シ

第十二條 海軍兵ニ編入ス可キ者ハ左ノ項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ  
選フ可シ

- 一 海員免狀ヲ受有シ海員ノ業ニ從事スル者
- 二 汽車或ハ諸製造所等ニ於テ機關手又ハ火夫ノ業ニ從事ス  
ル者
- 三 現ニ前項ノ職業ニ從事セスト雖モ一箇年以上嘗テ之ニ從

事セシ者

四 舟夫  
五 漁夫

職工及雜卒ハ各其勤務ニ適當ノ者ヲ選フ可シ

第十三條 條例第二十九條ノ徵兵検査名簿徵集延期名簿及徵集猶豫名簿ハ壯丁名簿及前年假決ノ諸名簿ヲ以テ編綴ス可シ但徵兵検査名簿ハ種類ヲ分チ之ヲ編綴シ冊尾ニ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官署名押印シ旅管徵兵官ニ差出ス可シ公權停止中若クハ逃亡失踪等ノ爲メ其年徵集スルコト能ハサル壯丁ハ徵集延期名簿ニ一年志願兵出願中及認可ヲ受ケタル者ハ徵集猶豫名簿ニ編入シ各假決ノ區畫ニ其事由ヲ記スルモノトス

第十四條 大隊區ニ於テ師團歩兵聯隊ノ配賦人員ヲ充スコト能ハサルトキハ大隊區司令官ヨリ之ヲ旅團長ニ具狀シ旅團長ハ他ノ大隊區同兵種ノ人員ヲ調査シ殘餘アルトキハ先ツ之ヲ以テ其缺ヲ補ヒ仍ホ不足スルトキ他ノ最寄二箇ノ大隊區ニ配賦ス可シ其配賦ノ法ハ條例第二十二條ノ例ニ依ル

第十五條 徵兵令第二十八條ニ當リ其事故第三年ニ至ルモ仍ホ止マサル者及同令第二十八條ニ當ル者アルトキハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ郡市徵兵參事員又ハ島嶼徵兵參事員ヲシテ其當否ヲ審議セシメ之ニ意見書ヲ付シ旅管徵兵官ニ差出ス可シ

第十六條 徵兵令第二十一條ニ當ル者ハ徵集猶豫ノ期限間身體ノ検査ヲ行ハス

第十七條 疾病傷痕又ハ犯罪等ノ爲メ身體検査ニ出頭セサル者アルトキハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ其狀況ニ由リ他ノ徵募區ノ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署若クハ徵兵検査所若クハ旅管徵兵署ニ出頭セシメ若クハ翌年ノ検査ニ回ス可シ但疾病傷痕ノ者ハ時宜ニ由リ其家ニ就キ検査ス可シ

第十八條 旅管徵兵署ハ府縣書記官ニ於テ適當ノ家屋ヲ選定シ旅團長到着ノ上之ヲ開設ス可シ

第十九條 抽籤施行ニ先ツ旅管徵兵署ニ於テ合格者ノ人員ヲ調査シ徵募區毎ニ兵種及甲乙兩種ニ分チ籤札ヲ作ル可シ籤ノ番號ハ合格者ノ數ニ應シ第一番ヨリ起スヲ例トス然レトモ抽籤ノ列ニ加ヘサル者アルトキハ現役ニ編入スルノ順序ヲ定ムル爲メ之ニ首位ノ番號ヲ附著シ其次番號ヨリ籤番號ヲ起ス可シ

第二十條 籤札ハ附録第三様式ニ依リ之ヲ作り籤箱ニ納レ之ヲ封鎖シ旅管徵兵委員大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官列席ノ前ニ置キ其封ヲ披キ島嶼附府縣郡市書記籤丁名簿ノ順序ニ氏名ヲ呼ヒ抽籤總代人ニ之ヲ抽カシム

第二十一條 條例第三十五條ノ抽籤名簿ハ一貫ノ番號ヲ記シ置キ總代人ノ抽ク毎ニ其住所氏名ヲ相當番號ノ下ニ記入ス可シ第二十二條 抽籤總代人ハ抽ク所ノ番號ヲ高聲ニ呼ヒ其籤札ヲ

島廳附府縣屬又ハ郡市書記ニ渡シ島廳附府縣屬郡市書記ハ之ヲ籤丁名簿氏名ノ頭ニ貼付シ割印ヲ押シ一人毎ニ之ヲ截テ切リ總代人ニ交付ス可シ

第二十三條 検査合格者ハ左ニ掲ケル順序ニ從ヒ現役兵ニ編入シ其要員ニ超過スル者ハ豫備徵員ニ編入ス

- 一 甲種合格者ニシテ徵兵令第二十八條ニ當ル者ニ人トキハ上ノ順序(同年齡ノ者ハ誕生日ノ順序)ニ從フ
- 二 甲種合格者ニシテ徵兵令第二十一條ニ當リ抽籤ノ法ニ依ラスシテ徵集スル者
- 三 甲種合格者ニシテ現役志願ノ者
- 四 甲種合格者ニシテ抽籤ノ者(番號ノ順序ニ從フ)
- 五 乙種合格者ニシテ徵兵令第二十八條ニ當ル者
- 六 乙種合格者ニシテ徵兵令第二十一條ニ當リ抽籤ノ法ニ依ラスシテ徵集スル者
- 七 乙種合格者ニシテ抽籤ノ者

第二十四條 抽籤終ルトキハ旅管徵兵署ニ於テ附錄第四第五第六第七様式ニ依リ新兵證書豫備徵員證書國民兵證書及免役證書ヲ作り市ハ市長ヨリ本人ニ附與シ郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長ヲシテ本人ニ附與セシム可シ

徵兵令第二十條ニ依リ國民兵編入ノ願ヲ許可セサル者ニハ願書ニ裁決ノ旨趣ヲ記載シ又同例第二十八條ニ依リ徵集スル者ニハ別ニ其裁決書ヲ作り前項ノ例ニ依リ本人ニ附與ス可シ

第二十五條 條例第三十六條ノ新兵名簿豫備徵員名簿免役名簿及國民兵編入名簿ハ徵兵検査名簿ヲ以テ編綴シ種類ヲ分チ冊尾ニ旅管徵兵官署名押印ス可シ

第二十六條 旅管徵兵署ニ於テ抽籤名簿ニ基キ新兵監視名簿及豫備徵員監視名簿ヲ作り各監視區長ニ交付ス可シ

第二十七條 條例第三十八條ノ徵兵表ハ附錄第八様式ニ依リ之ヲ作ル可シ

第二十八條 壯丁名簿進達後検査前名簿ニ關スル異動ヲ生シタル者若クハ他ノ徵募區ヨリ入籍シタル者アルトキハ町村長之ヲ島司又ハ郡長ニ報告ス可シ但検査後抽籤前ニ係ルモノハ島司又ハ郡長ヲ經テ旅管徵兵官ニ報告ス可シ

市ニ在テ検査名簿進達後抽籤前前項ニ當ル者ハ市長之ヲ旅管徵兵官ニ報告ス可シ

新兵入營前及豫備徵員ノ名簿ニ關スル異動ヲ除クハ市町村長ヨリ監視區長ニ通知ス可シ

第二十九條 検査後抽籤前徵募區外ニ轉籍スル者アルトキハ島司郡市長ヨリ検査名簿ヲ添ヘ轉籍地ノ島司又ハ郡市長ニ通知ス可シ

其異動轉籍地ノ抽籤後ニ係ルトキハ次年ニ於テ徵集ス

第三十條 徵兵令第十八條第十九條第二十條及第二十一條ニ當リ徵集延期若クハ徵集猶豫中名簿ニ關スル異動ヲ生スル者アルトキハ島司郡市長ニ於テ其名簿ニ訂正ヲ加フ可シ但郡又ハ

島嶼ニ在テハ町村長其異動ヲ島司又ハ郡長ニ報告ス可シ  
 他ノ徵募區ニ轉籍スル者ハ島司郡市長ヨリ徵集延期名簿若ク  
 ハ徵集猶豫名簿ヲ添ヘ轉籍地ノ島司又ハ郡市長ニ通知ス可シ  
 第三十一條 徵兵令第二十六條ニ依リ他ノ徵募區ニ於テ徵集  
 應ス可キ者コシテ同令第十八條第十九條第二十條第二十一條  
 ニ當リ徵集延期若クハ徵集猶豫ト爲リ延期若クハ猶豫中本籍  
 ニ復歸シ又ハ他ノ徵募區ニ寄留替ヲ爲シ更ニ其地ニ於テ徵集  
 ニ應シ度キ旨一月三十一日迄ニ願出ルトキハ島司郡市長之ヲ  
 許可スルコトヲ得  
 島司郡市長其願ヲ許可シタルトキハ徵集延期名簿若クハ徵集  
 猶豫名簿ヲ添ヘ新住地ノ島司又ハ郡市長ニ通知ス可シ但寄留  
 替ノ者ハ本籍ノ島司郡市長ニモ通知ス可シ  
 第三十二條 徵兵令第二十五條ノ屆出期限後條例第七十一條ニ  
 當ル者アルトキハ町村長ハ戶籍ニ基キ壯丁名簿ヲ作り島司又  
 ハ郡長ニ差出ス可シ  
 市ニ在テハ市長壯丁名簿ヲ作り大隊區徵兵署又ハ旅管徵兵署  
 ニ提出ス可シ  
 第三十三條 新兵入營ノ期ニ先ツチ大隊區司令官ニ於テ入營地  
 若クハ近衛海軍新兵集落地ニ到ル日數ヲ量リ召集ノ場所及日  
 時ヲ定メ島司又ハ郡市長及町村長ヲ經テ之ヲ各自ニ達ス可シ  
 第三十四條 條例第四十八條第二項ノ近衛海軍新兵受領委員ハ  
 左ノ如シ

新兵五人以上五十人迄  
下士若クハ上等兵 海軍ハ一等卒一名兵 卒一名乃至三名 以下之ニ徵フ一名兵 中少尉 海軍ニ在テハ大一名下士若クハ 上等兵一名乃至二名兵卒四名乃至六名 中少尉一名下士若クハ上等兵二名乃至 三名兵卒八名乃至十名 大尉一名中少尉一名下士若クハ上等兵 三名乃至五名兵卒十名乃至十五名  
 新兵五十一人以上百五十人迄  
 新兵百五十一人以上三百人迄  
 新兵三百一人以上  
 第三十五條 條例第四十八條第二項ノ近衛海軍新兵集落地ハ左  
 ノ如シ  
 第一師管ハ東京、横須賀  
 第二師管ハ仙臺、白河  
 第三師管ハ四日市、沼津  
 第四師管ハ神戸  
 第五師管ハ廣島、吳、丸龜  
 第六師管ハ長崎、佐世保、大分  
 第三十六條 近衛海軍新兵入營ノ期ニ先ツチ近衛及鎮守府ニ於  
 テ新兵ノ集落地ヨリ入營地ニ到ル日數ヲ量リ集落地到着ノ日  
 割ヲ定メ豫メ之ヲ各師團司令部ニ通牒ス可シ  
 第三十七條 條例第四十九條ノ入營延期願濟ノ者其他事故不參  
 ノ者アルトキハ新兵引率ノ大隊區副官若クハ書記ヨリ各隊長  
 又ハ近衛海軍新兵受領委員ニ其由ヲ通知ス可シ  
 第三十八條 條例第五十一條ニ依リ豫備徵員ヲ以テ新兵ノ缺員

ヲ補フニハ大隊區司令官ニ於テ其取扱ヲ爲ス可シ  
 第三十九條 徵兵令第二十七條ニ依リ翌年回ト爲リタルモノハ其年ノ新兵同時ニ入營セシム可シ但本條ノ人員ハ其年ノ新兵所要人員ニ加ヘサルモノトス  
 第四十條 新兵入營前癩疾又ハ不具ト爲リ永久兵役ニ堪ヘ難キ者ト認メタル者アルトキハ其診斷書ヲ添ヘ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ヨリ旅團長ニ具申ス可シ  
 第四十一條 條例第五十四條及本則第二十八條第三項ニ當ル新兵ノ異動ハ大隊區司令官ヨリ旅團長ニ報告ス可シ但新兵名簿送致後ニ在テハ旅團長ヨリ各隊長又ハ近衛都督若クハ鎮守府司令長官ニ通牒ス可シ  
 第四十二條 新兵入營前他ノ師管ニ轉籍シ隊籍ヲ變更スヘキ者アルトキハ本人名簿ヲ添ヘ旅團長ヨリ之ヲ轉籍地ノ旅團長ニ通牒ス可シ  
 第四十三條 新兵豫備徵員ニシテ轉籍シタル者ノ新兵證書豫備徵員證書ハ總テ轉籍地ノ大隊區司令官ニ於テ訂正ス可シ  
 第四十四條 新兵證書豫備徵員證書國民兵證書及免役證書ヲ失ヒ又ハ損傷シタル者ハ新ニ渡方ヲ島司又ハ郡市長ニ請求ス可シ

(附錄樣式略之)

○陸軍一年志願兵條例施行細則二十二年三月三日陸軍省令第三號  
 陸軍一年志願兵條例施行細則左ノ通定ム  
 陸軍一年志願兵條例施行細則  
 第一條 條例第二條ノ所屬部隊ヨリ給スル被服裝具ノ現品ハ左ノ如シ  
 一 第一種帽前立共  
 二 第二種帽  
 三 絨衣袴  
 四 小倉衣袴  
 五 夏衣袴二着  
 六 日覆  
 七 外套  
 八 脚絆  
 九 第一種手膜  
 十 背囊屬具共  
 十一 飯盒  
 十二 水筒  
 第二條 條例第三條ノ馬匹ニ係ル一切ノ費用トシテ納メシムル費目ハ左ノ如シ  
 一 藪秣糞藪費  
 二 裝鐵剔毛費  
 三 馬療費



第三條 居宅及食餌自辨ノ者行軍若クハ野外ニ於テ演習ヲ爲ス  
トキハ部隊ヨリ食餌ヲ給シ實費ヲ以テ其代價ヲ辨償セシム

第四條 條例第六條第二項ノ武器及屬具ノ修理費ハ金九圓トス

第五條 條例第九條ノ願書及承認書ハ附錄第一第二第三第四樣式ニ依リ認メ本籍ノ島司又ハ郡市長ニ差出ス可シ

第六條 條例第九條ノ證明書ハ附錄第五第六樣式ニ依リ之ヲ作ル可シ

第七條 條例第九條ノ卒業證書ハ其寫ヲ差出ス可シ

第八條 條例第十一條第二項ニ依リ師團長ハ身體檢査ノ時日ヲ定ムルト同時ニ檢査所設置ノ場所ヲ定メ府縣知事ニ通達シ府縣知事ハ其時日及場所ヲ管内ニ告示ス可シ

第九條 學術ノ試験ヲ受ク可キ者ニシテ身體ノ檢査ヲ爲シタル者ハ陸軍醫官其合格ト不合格トヲ判定シ且不合格ノ者ニ未滿ノ除クハ永久服役ニ堪ヘ難キ者ト一時服役ニ堪ヘ難キ者トヲ區別シ其人名書ニ體格檢査表ヲ添ヘ師團長ニ差出シ師團長ハ之ヲ本人居住地ノ旅管徵兵官ニ送付ス可シ

第十條 旅管徵兵官ハ前條ノ書類ニ依リ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ免役ノ處分ヲ爲シ一時服役ニ堪ヘ難キ者ハ體格檢査表ヲ大隊區徵兵官ニ送付シ大隊區徵兵官ハ該檢査表ニ依リ徵集延期ノ處分ヲ爲ス可シ但寄留ノ者ニ在テハ其旨ヲ本籍地ノ旅管徵兵官又ハ大隊區徵兵官ニ通知ス可シ

第十一條 條例第十一條第二項及第十二條ノ身體檢査並學術試

驗ニ出頭セサル者ハ條例第九條ノ願書ハ無効ニ屬ス

前項ニ當ル者ハ旅團長ヨリ本籍地ノ大隊區徵兵官ニ通知ス可シ

第十二條 條例第十四條ノ一年志願兵認定證書ハ附錄第七樣式ニ依リ作ル可シ

第十三條 官費ヲ以テ服役セシムヘキ者ニハ旅團長附錄第八樣式ニ依リ官費服役許可狀ヲ作り本人ニ附與ス可シ

條例第八條ニ依リ次年回シト爲スヘキ者ハ許可狀ノ裏面ニ其事由ヲ記載ス可シ

第十四條 官費ヲ以テ服役セシム可キ者ヲ各隊ニ配付スルニ方リ理財學若クハ商業學卒業證書ヲ所持スル者ハ近衛又ハ師團監督部所在地ノ步兵隊ニ配付ス可シ

第十五條 條例第十四條ニ依リ身體ノ檢査ヲ受ク可キ者ノ氏名ハ旅團長ヨリ大隊區司令官ニ達シ大隊區司令官ハ之ヲ島司又ハ郡市長ニ通達シ島司郡市長ハ檢査ノ時日及其場所ヲ管内ニ告示ス可シ

大隊區徵兵署又ハ檢査所ニ出頭シ難キ事故アル者ハ願書依リ他ノ大隊區徵兵署若クハ檢査所若クハ旅管徵兵署ニ於テ身體ノ檢査ヲ受クルコトヲ得但許可ヲ受ケスシテ出頭セサル者ハ條例第九條ノ願書ハ無効ニ屬ス

前項但書ニ當ル者ニシテ寄留ノ者ハ大隊區司令官ヨリ本籍地ノ大隊區徵兵官ニ通知ス可シ

第十六條 大隊區徵兵署若クハ検査所ニ於テ身體ノ検査ヲ爲シタル者ハ大隊區司令官合格不合格ヲ區別シ検査報告書ヲ作リ之ヲ旅團長ニ差出ス可シ

身體ノ検査ニ合格セサル者ノ者ヲ除クニシテ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ旅管徵兵官免役ノ處分ヲ爲シ其一時服役ニ堪ヘ難キ者ハ大隊區徵兵官徵集延期ノ處分ヲ爲ス可シ但寄留ノ者ニ在テハ其旨ヲ本籍地ノ旅管徵兵官又ハ大隊區徵兵官ニ通知ス可シ

第十七條 身體ノ検査ニ由リ本人志望ノ兵種ニ適セサルモ他ノ兵種ニ適ス可キ者ハ更ニ他ノ兵種ヲ志願スルコトヲ得

第十八條 一年志願兵認定證書ヲ附與シタル者ハ旅團長ヨリ自費服役官費服役次年回シ等ヲ區別シ其人名書ニ體格検査表ヲ添ヘ當該聯隊長大隊長以下同シニ送付シ又其人員ヲ師團長ニ報告シ師團長ハ之ヲ陸軍大臣ニ報告ス可シ

第十九條 一年志願兵入隊前禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ死亡シタルトキハ其親族ヨリ旅團長ニ届出可シ

第二十條 一年志願兵認定證書ヲ所持スル者疾病其他止ムヲ得サル事故ヲ生シ十二月一日ニ入隊シ難キトキハ證明書類ヲ添ヘ入隊ノ延期ヲ旅團長ニ願出可シ

其事故十二月二十日迄ニ止マヌシテ入隊セサル者ハ旅團長之ヲ次年回シト爲シ聯隊長及本人ニ通知ス可シ

第二十一條 一年志願兵認定證書ヲ所持スル者ニシテ十二月一日

日ニ入隊セサル者アルトキハ聯隊長ヨリ其人名ヲ旅團長ニ通知ス可シ

第二十二條 條例第三十條及本則第十九條第二十條第二項ニ當ル者官費服役者ナルトキハ旅團長ハ條例第八條ニ依リ次年回シト爲シタル者ヲ繰上ケ十二月三十一日迄ニ入隊セシムルコトヲ得但入隊ヲ命シタルトキハ其人名ヲ聯隊長ニ通知ス可シ

第二十三條 一年志願兵ハ入隊ノ當日讀法式及宣誓式ヲ行フモノトス

第二十四條 一年志願兵ニ授クル特別教育ノ課程ハ別ニ之ヲ定ム

第二十五條 條例第二十五條ニ依リ志願軍吏生志願軍醫生志願藥劑生志願獸醫生ト爲リ各専門ノ勤務練習ヲ志望スル者ハ該隊長ヨリ各自ノ卒業證書寫ヲ添ヘ近衛又ハ師團監督部長若クハ軍醫長若クハ獸醫長ニ通牒シ監督部長軍醫長獸醫長ハ近衛都督又ハ師團長ノ認可ヲ受ケ後半年初ニ於テ該隊長ヲ經由シ之ヲ命ス可シ

第二十六條 條例第二十五條ニ依リ志願軍吏生ト爲シタル者ハ近衛又ハ師團監督部ニ志願藥劑生ト爲シタル者ハ衛戍病院ニ派遣シ勤務ヲ練習セシム

第二十七條 志願軍吏生ノ教育ハ近衛又ハ師團監督部長志願軍醫生ノ教育ハ該隊二等軍醫正志願藥劑生ノ教育ハ衛戍病院長

志願獸醫生ノ教育ハ該隊上級ノ獸醫各其責ニ任スルモノトス  
 第二十八條 條例第二十三條及第二十六條ニ依リ上等兵及志願  
 軍吏生志願軍醫生志願藥劑生志願獸醫生ト爲シタル者ハ將校  
 集會所ニ於テ將校ト會食セシムルコトヲ得  
 第二十九條 志願軍吏生志願軍醫生志願藥劑生志願獸醫生ト爲  
 シタル者ハ武器及屬具ヲ返納セシメ更ニ徒卒刀ヲ給ス可シ  
 第三十條 一年志願兵滿期ニ先チ近衛都督又ハ師團長ハ條例  
 第二十九條ノ終末試驗委員ヲ組織ス可シ  
 第三十一條 終末試驗委員ハ各隊各部毎ニ上長官一名士官若干  
 名ヲ以テ組織ス可シ但獸醫部ニ在テハ士官若干名ヲ以テ組織  
 ス可シ  
 第三十二條 條例第二十四條第一項第二十八條第一項ニ依リ豫  
 備役ニ編入ス可キ者ハ該隊ヨリ其兵籍ヲ本人居住地ノ大隊區  
 司令部ヘ送致シ其他ハ本籍地ノ大隊區司令部ヘ送致ス可シ  
 第三十三條 條例第二十四條及第二十八條ノ一年志願兵終末試  
 驗及第證書ハ附錄第九様式ニ依リ各部各隊ニ於テ作ル可シ  
 第三十四條 一年志願兵中豫備士官ノ教育ヲ授クルニ堪ヘスト  
 認ムル者ハ下士ト爲スノ教育ヲ授ケ適任ノ者ハ服役滿期ノ際  
 上等兵ト爲シ下士適任證書ヲ附與シ豫備役ニ編入ス  
 第三十五條 服役中ノ費用自辨ノ者入隊後禁錮以上ノ刑ニ處セ  
 ラレ又ハ疾病傷痕ニ依リ現役ヲ免シ若クハ死亡シタルトキハ  
 實費ヲ精算シ殘金ヲ還付ス

(附錄様式略之)

○陸軍志願兵身體検査規則 陸軍省令第三十九號  
 陸軍志願兵身體検査規則別冊ノ通定ム  
 (別冊)

陸軍志願兵身體検査規則

- 第一條 身體検査ノ要ハ合格ト不合格トヲ區別スルニ在リ而シ  
 テ醫官ハ此検査ヲ行フ爲メ學術上諸種ノ方法ヲ施スコトヲ得
- 第二條 醫官ハ一日志願兵概ネ四十名ハ助手アルトキニ検査スヘ  
 シ其検査ニ要スル器械ハ陸軍病院備附ノモノヲ使用ス
- 第三條 志願兵ノ身長ヲ定ムルコト左ノ如シ  
 滿十七歲以上十八歲未滿 四尺九寸以上  
 滿十八歲以上 五尺以上
- 第四條 徵兵検査規則第四條及第五條ハ此規則ニ於テ之ヲ適用  
 ス
- 第五條 身體検査ノ順序ハ概ネ左ノ如シ但シ志願兵志願者ヲ徵  
 兵署若クハ徵兵検査所ニ於テ検査スルトキハ第一項第二項第  
 三項第四項ハ地方徵兵醫員ニ分擔セシムルコトヲ得
  - 一 志願兵ヲシテ踵ヲ測尺柱ニ當テ、直立セシメ其身長ヲ測  
 定シ次ニ尺帶ヲ取り兩肩胛骨下角左右乳頭ノ直下ヲ周匝  
 シ尋常ノ氣息ヲナサシメテ胸圍ヲ測リ續テ最長ノ呼吸ヲ  
 ナサシメ其縮張ノ差ヲ測ル
  - 二 一メートルノ氏視力表ヲ場内ノ壁上ニ掲ケ二十尺ノ距離ニ

志願兵ヲ立シメ初メ各偏眼ノ視力ヲ次ニ兩眼合働ノ視力ヲ檢シ而シテ後辨色肢ヲ檢ス

三 頭首、脊椎、四肢諸關節ノ屈伸、內外轉、回轉ノ諸運動ヲ檢ス

四 頭顱、顏面、眼、鼻、口、咽喉、耳、頸、胸肋、腋窩、上肢ノ前面及其兩側、腹肚、陰部、下肢ノ前面及其兩側、項、背、腰、臀、膝、肘、腕、四肢ノ後面ヲ檢ス

五 其住所、氏名、年齡等ヲ問ヒ應答ノ問言語、精神及聽官ノ機能ヲ試シ次ニ其體格一般ノ強弱健否ヲ判別シ體格ノ等位ヲ定ム

第六條 體格ハ等位ヲ區別スルコト左ノ如シ

一 甲種 身體強健精神異常ナクシテ兵役ニ堪フヘキモノ

二 乙種 甲種ニ亞クモノ

三 丙種 疾病或ハ畸形ニシテ兵役ニ堪ヘサルモノ

第七條 前條ノ甲種乙種ヲ合格トシ丙種ヲ不合格トス但シ丙種中ノ者ヲ除ク永久服役ニ堪ヘ難キ者ト一時服役ニ堪ヘ難キ者トヲ區別スヘシ

第八條 左ノ各項ノ一ニ該ルモノハ年齡及體格一般ノ構造ヲ酌量シテ合格トナスコトヲ得但シ體格検査表第一ニ其意見ヲ記入スヘシ

一 胸廓ハ尋常ノ氣息ニ於テ其周圍身長ノ半ニ至ラス若クハ縮張ノ差一寸五分ヲ超ヘサルモ其構造良ナルモノ

二 現ニ傷痕疾病ニ罹ルモ輕症ニシテ治癒ノ目途アルモノ

第九條 一年志願兵志願者ハ特ニ近視ニシテ視力十分ノ一以上ノモノヲ合格トナスコトヲ得

第十條 醫官ハ検査終了ノ後一週日以内ニ體格表第二病類表第三式ヲ調製シテ所管軍醫長ニ呈シ軍醫長之ヲ陸軍省醫務局長ニ呈スヘシ

第十一條 醫官ハ検査事項ニ關シ意見アルトキハ報告ニ添ヘ開申スルモノトス

第十二條 此規則ハ陸軍士官候補生並陸軍諸生徒志願者ノ身體検査ニ適用ス但シ幼年學校生徒志願者ニ在リテハ視力三分ノ二以上ニアラサレハ合格トナスコトヲ得ス

第十三條 諸生徒志願者ノ身長ハ左ノ如シ但シ別ニ規定スル所アルモノハ此限ニ非ス

滿十五歲以上十六歲未滿 四尺七寸以上

滿十六歲以上十七歲未滿 四尺八寸以上

滿十七歲以上ハ第三條ニ同シ

第十四條 士官候補生並諸生徒志願者ノ體格検査表ハ検査終了ノ後試験委員(検査官)ヲ經テ候補生並諸生徒ノ屬スヘキ部隊長ニ送附スヘシ

(第一式乃至第三式ノ體格検査表及病類表等)

○舊徵兵令交渉ノ件取扱方陸軍省訓令甲第三號

本年法律第一號ヲ以テ徵兵令改正ニ付テハ舊徵兵令ニ交渉ノ件取扱方左ノ通定ム

第一項 左ニ掲クル者ハ戶長ニ於テ徵兵事務條例施行細則第一條ニ依リ壯丁名簿ヲ作り島司又ハ郡區長ニ差出サシム可シ

一 新令第四十條第四十一條ニ當リ徵集ニ應スヘキ者

二 舊令第十八條第五項第六項ニ當リ徵集猶豫中ノ者

三 舊令第十七條ニ當ル者ニシテ其資格ヲ失ヒ第十八條第六項第六項ヲ第十九條第二十一條ニ當ル者ニシテ其事故止ニ本年徵集ニ應スヘキ者

四 新令施行前逃亡失踪其他ノ事故ニテ翌年回シト爲リタル者

第二項 前項ノ壯丁名簿ハ島司郡區長ヨリ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ提出セシム可シ

第三項 新令第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條及第四十一條ニ當リ徵集延期又ハ徵集猶豫中ノ者ハ別ニ壯丁名簿ヲ作ルヲ要セス從前ノ徵集猶豫名簿ヲ島廳又ハ郡區役所ニ備置キ異動ヲ生スル者アルトキハ訂正セシム可シ

○徵兵検査規則陸軍省令第三二號

陸軍醫官徵兵検査規則ヲ廢シ徵兵検査規則左ノ通定ム

徵兵検査規則

第一條 身體検査ノ要ハ合格トチ區別スルニ在リ合格ハ身體強健精神異常ナクシテ兵役ニ堪フヘキモノ不合格ハ疾病或ハ畸形ニシテ之ニ堪フヘカラサルモノトス而シテ此検査ハ學術上諸種ノ方法ヲ施スコトヲ得

第二條 現ニ傷痕疾病ニ罹ルモ輕症ニシテ服役シ得ヘキモノハ合格トス

第三條 身幹ハ左ノ如ク定ムト雖モ所要ノ人員不足スル時ニ當リテハ臨時遞減スルコトアルヘシ

砲兵、工兵 五尺五寸以上

歩兵、騎兵、輜重兵 五尺三寸以上

輜重輸卒 五尺二寸以上

陸軍職工 五尺以上

海軍水兵、火夫、看病夫 五尺三寸以上

海軍木工、鍛冶、廚夫 五尺二寸以上

警備隊ノ歩兵砲兵ハ以上ノ定尺ヨリ各二寸以内減縮スルコトヲ得

第四條 兵役ニ堪フヘカラサル疾病畸形ハ大約左ノ如シ

一 全身發育不全

二 骨、筋系瘦弱甚シキモノ

三 脂肪過多ニシテ運動ニ妨アルモノ

四 慢性腺腫、慢性腺潰瘍

五 軟部ノ惡性若クハ著大ナル腫瘍潰瘍

六 骨慢性炎、骨潰瘍、骨壞疽、骨腫瘍、骨軟化、佝僂病

七 瘰癧、癩、疥癬、皮膚病

八 象皮腫、癩

九 出血病、白血病

- 十 動脈瘤、靜脈瘤及著大ナル脈腫
- 十一 慢性關節癱瘓質斯、慢性痛風ニシテ著シキ器質ノ變化アルモノ
- 十二 癩癩、舞蹈病
- 十三 脊髄勞、進行性筋瘦小
- 十四 白痴、癲狂
- 十五 頭部畸形ノ著大ナルモノ
- 十六 眼瞼ノ内反、外反及涙癩
- 十七 角膜虹彩膜ノ疾患ニシテ視力ニ妨アルモノ
- 十八 斜視ニシテ一眼直視スルトキ他眼ノ角膜縁内外毗ニ達スルモノ
- 十九 陸軍兵ニ在テハ近視ニシテ視力二分ノ一以下ニ至ルモノ
- 二十 海軍兵ニ在テハ近視
- 陸軍兵ニ在テハ視力乏弱二分ノ一以下ニ至ルモノ及夜盲
- 二十一 失明
- 海軍兵ニ在テハ視力乏弱及夜盲
- 二十二 耳殼缺亡、慢性重聽、聾
- 二十三 鼻畸形ノ著大ナルモノ
- 二十四 鼻腔、前頭竇、上顎洞ノ慢性潰瘍、腫瘍
- 二十五 口内惡性潰瘍、唇頰癒著、口吻狹窄

- 二十六 唇又ハ齒牙ノ疾病缺損ニシテ咀嚼ニ妨アルモノ
- 二十七 口蓋ノ破裂、缺損、穿孔
- 二十八 舌若クハ唾腺ノ腫瘍、肥大、缺損又ハ扁桃腺ノ腫瘍、肥大ニシテ其著大ナルモノ及唾癩
- 二十九 啞、嚥
- 三十 喉頭及氣管ノ畸形並ニ其慢性病
- 三十一 食道狹窄
- 三十二 斜頸及脊梁ノ畸形ニシテ運動ニ妨アルモノ
- 三十三 胸廓畸形ノ著大ナルモノ
- 三十四 肺、胸膜ノ慢性病
- 三十五 心臟、心嚢ノ慢性病
- 三十六 腋臭及足汗ノ惡臭甚シキモノ
- 三十七 骨盤畸形ノ著大ナルモノ
- 三十八 歌兒尼亞
- 三十九 慢性脱肛、痔癩又ハ著大ノ痔核ニシテ定期性出血、膿潰等アルモノ
- 四十 尿癩、尿石及尿道畸形
- 四十一 睪丸、副睪丸ノ慢性炎、肥大及睪丸腹輪中ニ在テ疼痛ヲ發スルコトアルモノ
- 四十二 四肢ノ麻痺、削瘦、短縮、彎曲、假關節
- 四十三 關節畸形
- 四十四 脱臼若クハ習癖脱臼又ハ關節痿軟

四十五 拇指若クハ示指又ハ他ノ三指ノ爪甲全缺

四十六 陸軍兵ニ在テハ刺指又ハ指ノ癒著及小指末節ヲ除ク  
ノ他指節ノ強剛

四十七 海軍兵ニ在テハ刺指又ハ指ノ癒著及指節ノ強剛  
陸軍兵ニ在テハ環指若クハ小指ノ末節ヲ除クノ他一  
節以上又ハ環指小指共ニ一節以上ノ缺損

四十八 海軍兵ニ在テハ諸指一節以上ノ缺損  
足ノ畸形

四十九 陸軍兵ニ在テハ大趾ハ一節以上他趾ハ二趾以上ニシ  
テ一節以上ノ缺損  
海軍兵ニ在テハ諸趾一節以上ノ缺損

五十 刺趾又ハ趾ノ著大ナル彎曲

第五條 前條各項ノ疾病畸形ト雖モ其輕症ニシテ服役シ得ヘキ  
モノハ合格トシ爾餘ノ疾病畸形ニシテ服役シ得ヘカラサルモ  
ノト認ムルトキハ不合格トス

○徵兵検査手續陸軍部第三十七號  
但明治二十一年六月陸達第百三十一號陸軍徵兵検査手續ヲ廢

（別冊）

第一條 徵兵検査手續ハ徵兵検査規則ニ據リ之ヲ定ムルモノナ

第二條 大隊區警備隊區徵兵委員タル醫官ハ一日壯丁概テ百五

十名ヲ検査シ旅管徵兵委員タル醫官其検査ヲ要スルトキハ一

日概テ五十名ヲ検査スヘシ

第三條 大隊區警備隊區徵兵署事務員タル地方徵兵醫員ハ四名

トス

第四條 身體検査ノ順序ハ概テ左ノ如シ但シ測尺及視力關節運

動各部構造ノ検査ハ地方醫員ニ分擔セシムルモノトス

一 測尺主任ノ醫員ハ壯丁ヲシテ踵ヲ測尺柱ニ當テ、直立セ

シメ全身長ヲ測リ其尺度ヲ壯丁名簿ニ記入捺印シ次ニ尺

帶ヲ取り兩肩胛骨下角左右乳頭ノ直下ヲ周匝シ尋常ノ氣

息ヲナサシメテ胸圍ヲ測リ續テ最強ノ呼吸ヲナサシメ其  
縮張ノ差ヲ測ルヘシ但シ身幹定尺ニ滿ツルモノ胸圍身幹  
ノ半ヨリ大ナルモノ縮張ノ差一寸五分以上ノモノハ壯丁  
名簿ニ捺印シ是ヨリ以下ノモノ及測尺困難ナルモノハ醫  
官ニ申告スヘシ

二 視力検査主任ノ醫員ハスネルレン氏視力表ヲ場内ノ壁上  
ニ掲ケ二十尺ノ距離ニ壯丁ヲ立シメ初メ各偏眼視力ヲ次  
ニ兩眼合働ノ視力ヲ檢シ而シテ後辨色力ヲ檢スヘシ其檢  
査ニ由リ視力表ノ二十號ヲ明視スルモノ及辨色力完全ナ  
ルモノハ壯丁名簿ニ捺印シ否ラサルモノハ醫官ニ申告ス

- 三 關節運動検査主任ノ醫員ハ壯丁ヲシテ頭首、脊髓、四肢諸關節ノ屈伸、内外轉、回轉諸運動ヲナシシメ其運動完全ナルモノハ壯丁名簿ニ捺印シ否ラサルモノハ醫官ニ申告スヘシ
- 四 各部構造検査主任ノ醫員ハ頭顱、顔面、眼、鼻、口、咽喉、耳、頸、胸、肋、腋窩、上肢、前腕及其兩側、腹肚、陰部、下肢、前腕及其兩側、項、背、腰、臀、膝、肘、腕、四肢ノ後面ヲ檢シ其完全ナルモノハ壯丁名簿ニ捺印シ否ラサルモノハ醫官ニ申告スヘシ
- 五 醫官ハ主任醫員ノ申告ニ依リ不合格ト認メタルモノハ爾餘ノ検査ヲ止メ否ラサルモノハ壯丁名簿ニ自ラ其意見ヲ記入シタル後他ノ検査ヲ行ハシム
- 六 醫官ハ主任醫員ノ検査終ル後壯丁ノ住所、氏名、年齢等ヲ問ヒ應答ノ間言語精神及聽官ノ機能ヲ試ミ次ニ其體格一般ノ強弱健否ヲ判別シ體格ノ等位ヲ定ム
- 第五條 體格ノ等位ヲ區別スルニ左ノ如シ
  - 一 甲種 身體強健精神異常ナクシテ兵役ニ堪フヘキモノ
  - 二 乙種 甲類ニ亞クモノ
  - 三 丙種 徵兵令第十八條第一項第二項ニ當ルモノ
  - 四 丁種 疾病或ハ畸形ニシテ兵役ニ堪ヘサルモノ
- 第六條 左ノ各項ノ一ニ當ルモノハ體格一般ノ構造ヲ酌量シテ合格トナスコトヲ得但シ壯丁名簿ニ其意見ヲ記入スヘシ
  - 一 胸廓ハ尋常ノ氣息ニ於テ其周圍身幹ノ半ニ至ラス若クハ

- 二 縮張ノ差一寸五分ヲ超ヘサルモ其構造良ナルモノ
- 三 身體一部ノ形器官能ニ障礙アルモ輻重輸卒若クハ陸軍職工ノ服役ニ堪フヘキモノ
- 四 精神病、癲癩、重聽、夜盲、遺尿又ハ自覺症ヲ訴フルモ現ニ其徵候ナク若クハ其徵候確實ナラサルモノ
- 第七條 大隊區(警備隊區)徵兵委員タル醫官ハ壯丁體格ノ適否ヲ判定シ難キ場合ニ於テハ當該徵募區検査日內其検査ヲ續行スルコトヲ得而シテ尙決シ難キモノアルトキハ其理由ヲ附箋シテ旅管徵兵委員タル醫官ノ審決ニ附スヘシ
- 第八條 醫官ハ壯丁中故意ニ身體ヲ毀傷シ若クハ疾病ヲ作爲スルモノト認メタルトキハ鑑定書ヲ製シテ當該徵兵官ニ致スヘシ
- 第九條 醫官ハ地方徵兵委員ノ其任ニ堪ヘサルモノト認メタルトキハ其意見ヲ當該徵兵官ニ申告スヘシ
- 第十條 大隊區(警備隊區)徵兵委員タル醫官ハ検査終了ノ後一週日以内ニ徵兵體格表式第一徵兵病類表式第二ヲ調製シテ旅管徵兵委員タル醫官ニ報告スヘシ
- 第十一條 旅管徵兵委員タル醫官ハ前條ノ報告ニ據リ旅管徵兵體格表、旅管徵兵病類表式前條ヲ調製シ所管軍醫長ヲ經テ陸軍省醫務局長ニ報告スヘシ
- 第十二條 醫官ハ検査事項ニ關シ意見アルトキハ報告ニ添ヘ開申スルモノトス



○警備隊條例 明治十九年十一月  
勅令第七十五號

朕警備隊條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
警備隊條例

第一章 總則

第一條 小笠原島佐渡隱岐大島沖繩對馬ノ諸分營ニ漸次警備隊ヲ置  
ク

第二條 警備隊ハ營所司令官ノ管轄ニ屬スルモ指揮供給等ノ事ハ「鎮  
臺司令官」直ニ之ヲ管理ス

第三條 警備隊ノ兵卒ハ該島嶼ヨリ徵兵適齡ノ者ヲ徵集シ毎年兩度  
ニ其半數宛ヲ入營セシメ在營一箇年ニシテ歸休ヲ命ス  
其技藝ニ熟シ行狀方正ナル者ハ一箇年未滿ト雖モ歸休ヲ命スルコ

トアルヘシ

第四條 警備隊兵卒中上等兵ノ任ニ堪フ可キ者及上等兵ハ志願ニ依  
リ尙ホ一ケ年間在營スルコトヲ得(二十一年勅令第五  
十七號ヲ以テ改正)

上等兵中下士ノ任ニ堪フ可キ者ハ志願ニ依リ現役期限滿ツル迄在  
營スルコトヲ得(二十一年勅令第五十  
七號ヲ以テ本項追加)

第五條 警備隊ノ下士ハ該隊上等兵ニシテ在營一箇年ヲ經過シタル  
モノ、中ヨリ其任ニ堪フ可キ者ヲ拔擢シテ之ニ任ス但時宜ニ依リ  
他ノ下士ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得(二十一年勅令第五  
十七號ヲ以テ改正)

其上等兵ヨリ下士ニ任シタル者ハ現役期限滿ツル迄在營セシム  
但現役滿期後ハ陸軍現役下士上等兵再服役條例ニ依ル(二十一年勅  
令第五十七  
號ヲ以テ  
本項追加)

第二章 司令官ノ本務權限

第六條 警備隊司令官ハ兵隊ノ指揮節度軍紀風紀教育訓練等ノ事ヲ  
掌リ管地ノ警備保護ニ任ス

第七條 警備隊司令官ハ該全島ノ徵兵調査及豫備役後備軍驅員兵員ニ係ル一切ノ事務ヲ管理ス

第八條 警備隊司令官ハ管内騷擾ノ警アル時ハ先ツ情狀ヲ「鎮臺司令官」ニ申報シテ其區處ヲ承ク可シ但事火急ニシテ兵力ヲ要シ地方長官ヨリ出兵ヲ要求スル時ハ之ニ應シ狀ヲ具シテ「鎮臺司令官」ニ急報スヘシ其事外國ニ關涉スルモノハ出兵スルモ守勢ノ戰備ヲ取ル可シ

第九條 管内ニ於テ儀式慶典若クハ變災事故アリテ儀仗或ハ警護ノ爲メ地方長官ヨリ兵隊ヲ要スル事由ヲ具シテ之ヲ請フ時ハ「鎮臺司令官」ノ區處ヲ請フ可シ但事火急ニシテ區處ヲ請フノ暇ナキ時ハ之ニ應シ然ル後之ヲ報告スヘシ

第十條 出師準備ハ定期ニ從ヒ遺算ナキヲ要ス故ニ常ニ人馬召集物品徵發運輸等ノ方法ヲ整ヘ又後備兵ニ支給ス可キ武器彈藥被服陣具器具材料等ヲ備ヘ各主務官ヲシテ其貯藏保存ノ事ヲ擔任セシム可シ

第十一條 管内ニ在ル下士及兵員ノ身上ニ係ル事項ニ就テハ地方官ノ通牒ヲ受理シ例規アルモノハ直ニ處分シ其例規ナキモノハ「鎮臺司令官」ニ具申シテ區處ヲ承ク可シ

○海軍志願兵徵募規則 明治十八年六月第十三號布達

沿革略記 明治五年九月海軍省乙第百二十七號達ヲ以テ海軍兵員徵募規則ヲ定ム○十六年十二月第三十八號布達ヲ以テ海軍志願兵徵募規則ヲ定ム○十八年六月第拾三號布達ヲ以テ改正ス是レ現行法ナリ

明治十六年十二月第二十八號布達海軍志願兵徵募規則別冊ノ通改正ス (別冊)

海軍志願兵徵募規則

第一條 海軍兵員タランコトヲ志願スル者ハ本則ニ照シテ之ヲ徵募

ス但軍樂隊ハ別ニ規則ヲ設ク

第二條 志願兵ノ服役ヲ別テ現役及ヒ豫備役トス

現役年期ハ長期ヲ十個年短期ヲ七個年トス

豫備役ハ現役長期ヲ終リシ者ヲシテ二個年間短期ヲ終リシ者ヲシテ五個年間之ニ服セシム

徵兵令ニ依リ服役スル海軍諸兵及ヒ海軍工夫ニシテ志願兵ニ轉スル者ノ服役年數ハ前後ヲ通算ス

第三條 志願兵職名ノ大別ハ左ノ如シ

水兵、火夫、職工、看病夫、厨夫

第四條 水兵火夫ニ徵募スル者ハ年齢十七歳以上二十五歳未満ニシテ體格強壯身幹五尺以上トス

第五條 水兵火夫ノ年齢ハ第四條ニ掲クル如シト雖モ左ニ掲クル者ハ出願スルコトヲ得

一 年齢十五歳以上十七歳未満ニシテ體格非常ニ強壯身幹四尺九

寸以上ノ者但十七歳ニ滿タサレハ服役年數ニ算入セス

二 年齢三十五歳未満且體格強壯身幹五尺以上ニシテ西洋形船舶ニ從事シ水夫火夫ノ業ヲ操リシ者

三 年齢三十五歳未満且體格強壯身幹五尺以上ニシテ商船學校ノ卒業證書ヲ所持シ或ハ海員免狀ヲ所持スル者

第六條 職工看病夫ニ徵募スル者ハ其職ニ熟セルモノニシテ體格強壯年齢ハ十九歳以上三十五歳未満トシ厨夫ニ徵募スル者ハ體格強壯ノモノニシテ年齢ハ十九歳以上三十五歳未満トス

第七條 豫備役ニ入ル者ニハ其證書ヲ附與シ常ニ家居シテ産業ヲ營マシメ戰時或ハ事變ニ際シ之ヲ召集ス

第八條 現役ヲ終リ尙三個年以上ノ再役ヲ出願スル者ハ之ヲ許可ス但現役十二年ニ滿ル者ハ豫備役ニ服セシメス

第九條 現役中技藝ニ熟達シ行狀方正且才氣アル者ハ之ヲ拔擢シテ下士ニ任ス

第十條 現役中ハ食料被服ヲ官給シ且相當ノ日給ヲ與フ

第十一條 現役中ハ家族アル者ニ限り其扶助金トシテ壹個年金拾圓宛ヲ給ス

第十二條 現役年期中ハ現役豫備役ヲ論セス何等ノ事故アルモ免役出願ヲ許サス

第十三條 現役年期已ニ滿ル者ト雖モ戰時若クハ事變ノ際或ハ航海中ハ其期ヲ延スコトアル可シ此場合ニ於テハ其延期日數ヲ豫備役年期ヨリ除算ス

第十四條 徵募ノ地方及ヒ其人員等ハ徵募ヲ要スルトキ豫メ「海軍卿」ヨリ其地方廳ニ達シ志願人ヲ調査セシム

第十五條 地方廳徵募ノ達ヲ受ケタルトキハ本籍寄留ノ別ナク志願人員ヲ海軍省ニ届出可シ(十九年海軍省令第 二號ヲ以テ改正)

第十六條 志願人ハ父兄其他親族或ハ後見人ヲ以テ身元引受人ト爲ス可シ然レトモ居住ノ地ニ親族或ハ後見人ナキトキハ其地ニ本籍

アリ身元正確ナル者ヲ以テ之ニ充ルコトヲ得

第十七條 身元引受人ハ第一號書式ノ願書ニ志願人ノ履歷書ヲ添へ管轄地方廳ニ差出シ該廳ハ其願書正副共ニ巡回募兵使ニ出ス可シ

第十八條 左ニ掲クル者ハ出願スルコトヲ許サス

- 一 刑事被告人ト爲リ裁判未決ノ者
- 二 公權停止中ノ者
- 三 重罪ノ刑ニ處セラレタル者

第十九條 左ニ掲クル者ハ志願スルコトヲ得ス

- 一 陸軍諸兵ノ豫備役後備兵役ニ在ル者及ヒ先入兵タル者
  - 二 陸軍兵ノ補充員タル者
  - 三 徵兵令ニ依リ徵集シタル海軍現役兵及ヒ先入兵タル者
- 第二十條 募兵官員及ヒ其職務ハ左ノ如シ
- 募兵使

海軍佐官或ハ大尉ヲ以テ之ニ充ツ府縣ニ派出シテ兵員徵募ノ事

務ヲ掌ル

募兵醫官

海軍軍醫ヲ以テ之ニ充ツ募兵使ニ從ヒ志願人ノ身幹體格ヲ検査スル事ヲ掌ル

募兵書記

海軍下士或ハ十一等以下ノ軍屬ヲ以テ之ニ充ツ募兵使ニ從ヒ諸記録ノ事ヲ掌ル

第二十一條 地方長官ハ屬官ヲシテ管内兵員徵募ノ事務ヲ補助セシム可シ

第二十二條 郡區長及ヒ戸長ハ其郡區町村内兵員徵募ニ關スル事ヲ掌ル可シ

第二十三條 募兵使ハ府縣屬官及ヒ郡區長ト商議シ豫メ検査ノ場所及ヒ日割人員等ヲ定メ戸長ヲ經テ志願人ニ出頭ヲ命ス可シ

第二十四條 志願人ノ検査ハ府縣屬官或ハ郡區長ノ立會ヲ要ス但郡

區長事故アルトキハ其書記ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第二十五條 検査合格ノ者ニハ募兵使ヨリ立會ノ府縣屬官或ハ郡區長ヲシテ第二號書式ノ採用證書ヲ附與セシム

第二十六條 検査合格ノ者ニ採用證書ヲ附與シタルトキハ戸長ヨリ第三號書式ノ本人戸籍明細書ヲ出サシム

第二十七條 寄留地ニ於テ採用スル者ハ募兵使ヨリ其旨本籍ノ地方廳ニ通知シ該廳ハ本人所管ノ戸長ヲシテ第二十六條ニ掲クル戸籍明細書ヲ出サシメ募兵使或ハ鎮守府ニ送付ス可シ

第二十八條 採用ノ兵員ハ募兵使携帶ノ誓約簿ニ各自記名捺印ス可シ

第二十九條 合格ノ者所要ノ人員ニ超過スルトキハ抽籤法ヲ以テ當籤者ヲ採用ス

第三十條 抽籤ハ各自ニ之ヲ行ハシムルモノトス但便宜ニ因リ一名乃至三名ヲ抽籤總代ト爲スコトヲ得

第三十一條 検査呼出ニ際シ病氣或ハ父母ノ重病等ノ爲メ一時出頭シ難キ者或ハ之カ爲メ願書却下ヲ請フ者ハ其事實ヲ詳記シ戸長ノ證印ヲ受ケ郡區長ヲ經テ募兵使ニ申出其處分ヲ受ク可シ

第三十二條 徵募ノ兵員各地發程ノ期限ハ募兵使ヨリ達ス可シ府縣屬官或ハ郡區長ハ府縣或ハ郡區毎ニ其兵員ヲ便宜ノ場所ニ集合セシメ附添人一名若クハ二名ヲ附シ同時ニ發程セシム可シ

第三十三條 疾病其他已ムヲ得サル事故ニテ發程シ難キ者ハ其事實ヲ詳記シ疾病者ハ醫師ノ診斷書ヲ添フ戸長ノ證印ヲ受ケ郡區長ヲ經テ募兵使或ハ鎮守府ニ届出可シ而シテ其事故止ムトキハ郡區長ニ届出郡區長ハ鎮守府ニ届出速ニ發程セシム可シ

第三十四條 第三十二條ニ掲クル附添人旅費并ニ徵募兵員各自居住ノ地ヨリ入營迄ノ旅費ハ一般徵兵ノ定則ニ照準シ官費ヲ以テ支給ス但志願人検査ノ場所へ往復并ニ滞在等ノ費用ハ總テ自辨タル可シ

第三十五條 現役中公務ニ因リ傷痍疾病ヲ受ケ兵役ニ堪ヘ難キ者ハ海軍恩給令ニ照準シテ相當ノ恩給ヲ與フ

第三十六條 現役中傷痍疾病ニ罹ル者ハ海軍病院ニ入レ治療セシメ若シ兵役ニ堪ヘ難キ者ハ免役ノ上旅費ヲ給シ歸郷セシム但服役實期十一年以上ノ者ハ第三十五條ニ同シ

第三十七條 現役中父母ノ重病或ハ一家ノ安危ニ係ル等非常ノ事故アリ一時已ムヲ得スシテ父母又ハ親族等ヨリ其事實ヲ詳記シ疾病ハ醫師ノ診斷書ヲ添フ戸長ノ奥書證印ヲ受ケ本人ノ所轄廳ニ願出ルトキハ詮議ノ上往復ヲ除キ二週日以内ノ歸省ヲ許ス其旅費ハ自辨タル可シ但二等若水兵若火夫ハ本文ノ限ニ在ラス

第三十八條 臨時志願兵ノ補缺員年期中ノ者ノ缺ヲ補充スルモノヲ云フヲ要スルトキハ募兵使ヲ派遣セス鎮守府ニ於テ徵募スルコトヲ得(十九年海軍省令第二號ヲ以テ改)

(書式略ス)

○海軍下士卒家族扶助金給與規則二十一年七月  
海軍下士卒家族扶助金給與規則左ノ通改定ス海軍省令第十號

海軍下士卒家族扶助金給與規則

- 第一條 志願ニ依リ出身シタル下士卒現役中ハ扶助金トシテ其家族ヘ一箇年ニ金拾圓ヲ給與ス但單身戶主タル下士卒ノ附籍者及單身戶主タル下士卒ヲ附籍セシメタル者コハ給與セス
- 第二條 現役兵員ニ編入又ハ退職退役或ハ免官免役死亡其他現役一箇年ニ滿タサル時及第三條第四條第五條ノ場合ニハ總テ月割ヲ以テ給與ス
- 第三條 海軍刑法第百十九條第百二十條第百三十三條第百三十四條第百三十五條ノ罪ヲ犯シタル者其不在中ハ給與ヲ停止ス
- 第四條 單身ノ下士卒家族ヲ有セタル時ハ其家族入籍ノ月ヨリ給與ス但入籍後三十日ヲ過キ地方廳ヘ届出タル者ハ該廳ヨリ報告ノ月ヨリ給與ス
- 第五條 養子又ハ復籍等ノ事故ニ依リ甲乙兩家ニ跨ル時ハ其當月分ハ甲ノ家族ニ給與ス
- 第六條 扶助金額ハ曆年ニ依リ前後二期ニ分テ前半分ハ其年八月ニ後半分ハ翌年二月ニ該地方廳ニ於テ下附ノ日マテハ乙地分ハ給與期月ニ當ル會計年度ノ經費ヨリ支出スルモノトス
- 第七條 地方廳ニ於テ扶助金下附ノ際家族失踪等ノ事故ニ依リ

六箇月以上受領者ナキ時ハ其金額ノ給與ヲ停止ス

第八條 甲地方ヨリ乙地方ニ移住スルモ六月一日ヨリ前半分下附ノ日マテ及十二月一日ヨリ後半分下附ノ日マテハ乙地方廳ヘ金額下附ノ出願ヲ許サス各一期分ハ甲地方廳ニ於テ下附スルモノトス

第九條 明治十七年九月六日以前ヨリ現役ニ服スル者及志願兵徵募規則ニ依リ同日以前ニ徵募シタル者ニハ一箇月金壹圓七拾五錢ヲ給與ス其支給法ハ前各條ノ例ニ依ル但其後ニ家族ヲ有シタル者ニハ其當月ヨリ又再役シタル者ニハ其翌月ヨリ第一條ノ金額ヲ給與ス

○海軍下士卒家族扶助金支出手續二十年六月  
海軍下士卒家族扶助金支出手續左ノ通定ム海軍省訓令第七十號

海軍下士卒家族扶助金支出手續

- 第一條 下士卒家族扶助金ノ支出額ハ交付期月前横須賀鎮守府司令長官ヲシテ北海道廳長官府縣知事ニ通牒セシム
- 第二條 北海道廳長官府縣知事ハ前條ノ通牒ヲ受クルトキハ會計主務官又ハ其代理官ヲシテ歳出取扱順序第五條ニ依リ仕拂ヲ執行セムヘシ
- 第三條 北海道廳長官府縣知事ハ毎月支出ヲ裁可シタル調書ニ基キ出納規則第七十三條ニ準シ第二十一號書式ノ歳出報告書ヲ製シテ之ヲ横須賀鎮守府ヘ送付スヘシ
- 第四條 歳出取扱順序第三十四條第三十五條ノ報告書及第三十

七條第三十八條ノ取消書ハ北海道廳長官府縣知事ヨリ横須賀鎮守府へ送付スヘシ

第五條 北海道廳府縣ノ會計主務官ハ歳出取扱順序第三十六條ノ手續ニ依リ第二十五號書式ノ精算未済報告書ヲ大藏省及會計検査院へ送付スルトキハ同時ニ副書壹通ヲ横須賀鎮守府へ送付スヘシ

第六條 前各條ニ掲クル外ハ總テ歳出取扱順序第六條ヨリ第十

八條マテノ各條ニ依リ取扱フヘシ

軍法書第一類ニ載ス

○戒嚴令 明治十五年八月 第三十六號布告

戒嚴令別冊ノ通制定ス

(別冊)

戒嚴令

第一條 戒嚴令ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵備ヲ以テ全國若クハ一地方ヲ警戒スルノ法トス

第二條 戒嚴ハ臨戰地境ト合圍地境トノ二種ニ分ツ

第一 臨戰地境ハ戰時若クハ事變ニ際シ警戒ス可キ地方ヲ區畫シテ臨戰ノ區域ト爲ス者ナリ

第二 合圍地境ハ敵ノ合圍若クハ攻撃其他ノ事變ニ際シ警戒ス可キ地方ヲ區畫シテ合圍ノ區域ト爲ス者ナリ

第三條 戒嚴ハ時機ニ應シ其要ス可キ地境ヲ區畫シテ之ヲ布告ス

第四條 戰時ニ際シ「鎮臺」營所要塞海軍港鎮守府海軍造船所等遠カニ合圍若クハ攻撃ヲ受クル時ハ其地ノ司令官臨時戒嚴ヲ宣告スルヲ得又戰略上臨機ノ處分ヲ要スル時ハ出征ノ司令官之ヲ宣告スルヲ得

第五條 平時土寇ヲ鎮定スル爲メ臨時戒嚴ヲ要スル場合ニ於テハ其地ノ司令官速カニ上奏シテ命ヲ請フ可シ若シ時機切迫シテ通信斷絶シ命ヲ請フノ道ナキ時ハ直ニ戒嚴ヲ宣告スルヲ得

第六條 軍團長師團長旅團長「鎮臺」營所要塞司令官警備隊司令官若



クハ分遣隊長或ハ艦隊司令長官艦隊司令官鎮守府長官若クハ特命司令官ハ戒嚴ヲ宣告シ得ルノ權アル司令官トス(十九年勅令第百七十四號ヲ以テ要塞司令官ノ下ニ警備隊云々十三字ヲ加フ)

第七條 戒嚴ノ宣告ヲ爲シタル時ハ直チニ其狀勢及ヒ事由ヲ具シテ之ヲ「太政官」ニ上申ス可シ

但其隸屬スル所ノ長官ニハ別ニ之ヲ具申ス可シ

第八條 戒嚴ノ宣告ハ曩ニ布告シタル所ノ臨戰若クハ合圍地境ノ區畫ヲ改定スルコトヲ得

第九條 臨戰地境內ニ於テハ地方行政事務及ヒ司法事務ノ軍事ニ關係アル事件ヲ限リ其地ノ司令官ニ管掌ノ權ヲ委スル者トス故ニ地方官地方裁判官及ヒ檢察官ハ其戒嚴ノ布告若クハ宣告アル時ハ速カニ該司令官ニ就テ其指揮ヲ請フ可シ

第十條 合圍地境內ニ於テハ地方行政事務及ヒ司法事務ハ其地ノ司令官ニ管掌ノ權ヲ委スル者トス故ニ地方官地方裁判官及ヒ檢察官

ハ其戒嚴ノ布告若クハ宣告アル時ハ速カニ該司令官ニ就テ其指揮ヲ請フ可シ

第十一條 合圍地境內ニ於テハ軍事ニ係ル民事及ヒ左ニ開列スル犯罪ニ係ル者ハ總テ軍衙ニ於テ裁判ス

刑法

第二編

第一章 皇室ニ對スル罪

第二章 國事ニ關スル罪

第三章 靜謐ヲ害スル罪

第四章 信用ヲ害スル罪

第九章 官吏瀆職ノ罪

第三編

第一章

第一節 謀殺故殺ノ罪

第二節 殴打創傷ノ罪

第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

第七節 脅迫ノ罪

第二章

第二節 強盜ノ罪

第七節 放火失火ノ罪

第八節 決水ノ罪

第九節 船舶ヲ覆没スル罪

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

第十二條 合圍地境内ニ裁判所ナク又其管轄裁判所ト通路斷絶セシ

時ハ民事刑事ノ別ナク總テ軍衙ノ裁判ニ屬ス

第十三條 合圍地境内ニ於ケル軍衙ノ裁判ニ對シテハ控訴上告ヲ爲スヲ得ス

第十四條 戒嚴地境内ニ於テハ司令官左ニ記列ノ諸件ヲ執行スルノ

權ヲ有ス但其執行ヨリ生スル損害ハ要償スルヲ得ス

第一 集會若クハ新聞雜誌廣告等ノ時勢ニ妨害アリト認ムル者ヲ停止スルヲ

第二 軍需ニ供ス可キ民有ノ諸物品ヲ調査シ又ハ時機ニ依リ其輸出ヲ禁止スルヲ

第三 銃砲彈藥兵器火具其他危險ニ涉ル諸物品ヲ所有スル者アル時ハ之ヲ検査シ時機ニ依リ押收スルヲ

第四 郵便電報ヲ開緘シ出入ノ船舶及ヒ諸物品ヲ検査シ並ニ陸海通路ヲ停止スルヲ

第五 戰狀ニ依リ止ムヲ得サル場合ニ於テハ人民ノ動産不動産ヲ破壊燬燒スルヲ

第六 合圍地境内ニ於テハ晝夜ノ別ナク人民ノ家屋建造物船舶中ニ立入り檢察スルヲ

第七 合圍地境内ニ寄宿スル者アル時ハ時機ニ依リ其地ヲ退去セ

シムル下

第十五條 戒嚴ハ平定ノ後ト雖モ解止ノ布告若クハ宣告ヲ受クルノ日迄ハ其効力ヲ有スル者トス

第十六條 戒嚴解止ノ日ヨリ地方行政事務司法事務及ヒ裁判權ハ總テ其常例ニ復ス

○法律規則中戰時ト稱スル場合明治十五年八月  
第三十七號布告  
凡ソ法律規則中戰時ト稱スルハ外患又ハ内亂アルニ際シ布告ヲ以テ定ムル者トス

○徵發令明治十五年八月  
第四十三號布告  
徵發令別冊ノ通制定ス

(別冊)

徵發令

第一條 徵發令ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸軍或ハ海軍ノ全部又ハ一部ヲ動カスニ方リ其所要ノ軍需ヲ地方ノ人民ニ賦課シテ徵發スルノ法トス

但平時ト雖モ演習及ヒ行軍ノ際ハ本條ニ准ス

第二條 徵發ハ陸軍若クハ海軍官憲ノ徵發書ヲ以テ之ヲ行フ

第三條 左ニ記列スル官憲ハ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス

一 陸軍卿海軍卿鎮臺司令官及ヒ鎮守府長官

二 陸軍ニ於テハ特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長若クハ演習及ヒ行軍ノ軍隊長

三 海軍ニ於テハ特命司令官艦隊司令長官艦隊司令官分遣艦長若クハ操練及ヒ航海ノ艦隊司令官又ハ艦長

第四條 徵發ス可キモノ、種類ニ依リ徵發區會社モ之ニ准スヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 第十二條第一項ハ 府縣
- 二 第十二條第二項及ヒ第三項ハ 郡區
- 三 第十二條第四項以下各項及ヒ第十三條各項ハ 町村
- 四 船舶會社所有ノ船舶及ヒ鐵道會社所有ノ瀛車ハ 會社
- 第五條 徵發ス可キモノハ徵發區内ニ現在スルモノニ限ル
- 第六條 徵發書ハ徵發區ニ從ヒ府知事「縣令」郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シ
- 第七條 徵發書ヲ受ケタル府知事「縣令」郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ時期ヲ誤ルコトナク其供給ヲ完全セシムルノ責アルモノトス
- 第八條 各徵發區ニ於テハ臨時徵發ニ應ス可キ便宜ノ方法ヲ豫定ス可キモノトス
- 第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ時期ニ違フコトナク之ヲ供給スルノ義務アルモノトス若シ其時期ニ違フトキハ府知事「縣令」郡區

- 長戸長他ノ方法ヲ以テ調達シ爲メニ生シタル費用ハ本人ヲシテ之ヲ辨償セシム但會社ニ係ルモノハ陸海軍官憲直ニ其處分ヲ爲ス可シ
- 第十條 徵發ヲ課セラレタルモノノ商用其他ノ事故ヲ以テ供給ヲ拒ミ又ハ供給ス可キモノヲ藏匿シタルトキハ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得
- 第十一條 供給ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ其受領證票ヲ府知事「縣令」郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ交付スヘシ
- 第十二條 徵發ス可キモノ左ノ如シ
  - 一 米麥秣莠鹽味噌醬油漬物梅干及ヒ薪炭
  - 二 乘馬馱馬駕馬車輛其他運搬ニ供スル獸類及ヒ器具
  - 三 人夫
  - 四 宿舍廐圍及ヒ倉庫
  - 五 飲水石炭

- 六 船舶
- 七 鍊道瀛車
- 八 演習ニ要スル地所
- 九 演習ニ要スル材料器具

第十三條 戰時若クハ事變ニ際シテハ第十二條ノ諸項ニ掲クルモノ、外徴發ス可キモノ左ノ如シ但平時ノ演習及ヒ行軍ニハ徴發スルコトヲ得ス

- 一 造船所工作所及軍事ノ工作ニ要スル材料器具
- 二 職工鑛夫洗濯人ノ類
- 三 被服裝具艸鞋兵器彈藥船具寢具藥劑治療器械及ヒ繙帶具
- 四 水車搗春ノ類
- 五 病院

第十四條 第十二條第二項中徴發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

- 一 皇族所用ノ車馬

- 二 外國公使館并ニ領事館ニ屬スル車馬
  - 三 乘馬本分タル職務ニ要スル馬匹
  - 四 郵便用ノ車馬
  - 五 公認セラレタル種牛種馬
- 第十五條 第十二條第四項中徴發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ
- 一 公務ニ屬スル麻署
  - 二 皇族ノ邸宅
  - 三 外國公使館領事館及其所屬館
  - 四 鐵道電信郵便用ノ建造物
  - 五 陸海軍將校并ニ同等官現住ノ家屋
  - 六 博物館書籍館
  - 七 病院盲啞院棄兒院
  - 八 學校但臨戰合圍地境內ニ在リテハ此限ニ在ラス
  - 九 製造場内機械室

- 第十六條 第十二條第二項ニ掲クルモノ、使用ハ其原用ヲ轉シテ他用ニ供スルヲ許サス但戰時若クハ事變ニ際シテハ此限ニ在ラス
- 第十七條 第十二條第二項ニ掲クルモノハ其差出場所ヨリ六里未満ノ地ニ於テ使用スルヲ例トシ一日ノ使用ハ六里ニ越ユルコトヲ得ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ六里以外ノ地ニ使用スルコトヲ得
- 第十八條 第十二條第四項ニ掲クルモノハ合圍地境内ヲ除クノ外居住者ノ起臥及ヒ營業ニ必要ナル場所ヲ徵用スルコトヲ得ス但營業ニ必要ナルモ旅店等ハ此限ニ在ラス
- 第十九條 宿舍ノ廣狹ハ其地家屋ノ數ト隊伍ノ編制トニ從ヒ一定シ難シ故ニ臨時適宜ニ之ヲ定ム
- 第二十條 第十二條第四項ニ掲クルモノハ陸軍若クハ海軍ノ都合ニ依リ特ニ其場所ヲ指定スルコトアルヘシ
- 第二十一條 宿舍ヲ定メタルノ後ハ區町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルコトヲ許サス廐圍倉庫亦同シ

- 第二十二條 宿舍廐圍ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ併セテ人馬ノ食飼ヲ供給ス可シ但駐軍二日以上ニ至ルトキハ第四日ヨリ食飼ハ陸軍若クハ海軍ノ自辨トス
- 第二十三條 第十二條第六項ノ徵發ニ係リ其乘載人馬ノ食飼ヲ要スルモノハ併セテ供給セシム
- 第二十四條 第十二條第六項及ヒ第七項ニ掲クルモノハ戰時若クハ事變ニ際シ借切トシテ之ヲ徵用スルコトアル可シ
- 第二十五條 第十二條第二項第六項及ヒ第七項ニ掲クルモノハ其操業者ヲ併セテ徵用スルヲ例トス但時宜ニ依リ各個ニ分別シテ徵用スルコトヲ得
- 第二十六條 第十二條第六項ニ掲クルモノヲ操業者ト各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル但船橋及ヒ舢舨ニ充ツルモノハ此限ニ在ラス
- 第二十七條 第十二條第七項ニ屬スル汽車其屬具鐵道建築所用ノ材

料器具及ヒ操業者ヲ各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル

第二十八條 第十三條第五項ニ掲クルモノハ陸海軍病院ノ補助トシテ徵用スルヲ例トス但合圍地境內ニ在リテハ全ク明渡サシムルコトヲ得

第二十九條 徵發ニ係ルモノハ第三十一條乃至第五十條ニ定ムル所ノ方法ニ從ヒ賠償ス

第二十條 徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ徵發區ノ義務トシ其輸送賃ヲ支辨セス

第三十一條 賠償ハ平時ト戰時トヲ論セス其時々之ヲ支辨スルモノトス但戰時若クハ事變ニ際シ紛擾ノ爲メ延滞シテ三ヶ月ヲ越ユルトキハ年六分ノ割ヲ以テ其利子ヲ付ス

第三十二條 賠償ハ徵發區毎ニ一括シテ府知事「縣令」郡區長戸長停車場長船舶會社ノ店長ヨリ之ヲ請求ス可シ

第二十三條 徵發物件ノ其使用ノ爲メニ毀損シタルモノハ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

其毀損ハ持主若クハ操業者ヨリ速ニ其地ニ在ル陸海軍官憲若クハ戸長ニ届出可シ其届出ハ徵用濟引渡ノ後左ノ期限ヲ越ユ可カラス若シ其期限ヲ越ヘ又ハ期限内持主若クハ操業者ニ於テ使用セシトキハ無効トス

一 西洋形船舶 七日間

二 地所 評價委員ノ告示スル時日間

三 其他ノ物件 一日間

第三十四條 第十二條第一項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地市場ノ前三ヶ年間ノ平均價ヲ取り之ヲ定ム其平均價ノ取り難キモノハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十五條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ賃價トス但物件ト操業者トヲ各個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其

郡區平常ノ雇賃及ヒ借賃ニ准シテ賠償ス

第三十六條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ルモノヲ宿泊セシメ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキハ第三十二條ノ例ニ拘ハラス賃價ノ半額ヲ前給シ宿泊食飼ヲ官給ス但此場合ニ於テハ賃價ノ四分ノ一ヲ減ス

第三十七條 第十二條第二項及ヒ第六項ニ掲クルモノハ買上クルトキハ勿論其他使用ノ都合ニ依リ價格ノ豫定ヲ要スルトキハ其金額ヲ定メ置ク可シ其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十八條 第十二條第三項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第三十九條 第十二條第四項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ陸海軍省ニ於テ之ヲ定ム

第四十條 第十二條第五項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地平常ノ代價

トス

第四十一條 第十二條第六項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外左ノ區別ニ從フ

一 出船ノ定時アリテ定路ヲ航スルモノハ平常ノ定賃

二 定路ヲ航スルモ特ニ出船時日ヲ命シタルトキハ其乗載量五分ノ三ニ滿テタル以上ハ前項ノ例ニ准ス若シ之ニ滿テサルモ五分ノ三ニ値ル平常ノ定賃

三 出船及ヒ航路ノ定メナクシテ定賃ナキモノ又ハ運送ヲ以テ營業トセサルモノ等其賠償金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定額

第四十二條 第二十四條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者平常ノ給料航泊實費及ヒ船舶ノ損料トス其損料ハ一ヶ月ニ各船舶買入代價六十四分ノ一トス

第四十三條 第二十六條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常



ノ給料船舶ニハ第四十二條ノ損料トス但船橋及ヒ舢船ニ充テタル  
 モノ、賠償金額ハ第四十一條第三項ニ准ス  
 第四十四條 第十二條第七項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書ア  
 ルモノ、外平常ノ定賃トス  
 第四十五條 第二十七條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常  
 ノ給料物件ニハ其地平常ノ代價若クハ損料トス其金額ニ就キ供給  
 者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス  
 第四十六條 第十二條第八項ノ徵發ニ係ルモノハ其植物ニ損害ヲ加  
 ヘ又ハ地形ヲ變更シタルトキニ限り賠償ス其金額ハ評價委員ノ評  
 定ニ任ス  
 第四十七條 第十二條第九項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若  
 クハ相當ノ損料ヲ賠償ス  
 第四十八條 第十三條第一項第三項及ヒ第四項ノ徵發ニ係ルモノハ  
 其地常平ノ代價若クハ損料ヲ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調

和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス  
 第四十九條 第十三條第二項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シ  
 テ賠償シ第二十六條ヲ適用ス  
 第五十條 第十三條第五項ノ徵發ニ係ルモノハ通常患者ノ例ニ從フ  
 テ賠償ス全ク明渡サシムルトキハ第三十九條ノ例ニ准ス  
 第五十一條 徵發ヲ拒ミ或ハ忌避シ或ハ漫リニ使役ヲ離レタルモノ  
 及ヒ之ヲ教唆誘導シタルモノハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ  
 三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
 第五十二條 徵發ノ命令ヲ受ケタル府知事「縣令」郡區長戸長停車場  
 長船舶會社ノ店長其處置ヲ爲サ、ルモノハ二月以上二年以下ノ輕  
 禁錮ニ處シ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其懈怠ニ出ルモノ  
 ハ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第五十三條 徵發書ヲ出スノ權ヲ有スル官憲妄ニ徵發書ヲ出シ又ハ  
 其權ヲ有セサル官憲徵發書ヲ出シタルトキハ一年以上四年以下ノ

輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

○徵發費用怠納者處分並ニ其費用ニ關シ出訴方<sub>明治十六年八月三十一號</sub>布告  
徵發令ニ依リ負擔ス可キ費用ノ怠納者ハ<sub>明治十年十一月十一號</sub>第七拾九  
號布告ニ依リ處分ス可シ但財産公賣ノ際買受望人ナキトキハ徵  
發區ニ没入シ不足金アルトキハ其區ノ損失ニ歸ス  
右費用ニ關スル處分ニ就キ不服アル者ハ<sub>明治十五年五月</sub>第貳拾貳  
號布告ニ依ル可シ

○徵發事務條例<sub>十五年十二月二十六號</sub>布告  
徵發事務條例別冊ノ通之ヲ定ム  
(別冊)

徵發事務條例

第一條 徵發事務條例ハ徵發令ニ基キ實際取扱ノ規準ヲ定ムル  
モ入トス  
第二條 陸軍若クハ海軍官憲ハ徵發區ノ大小遠近及ヒ供給力ヲ  
酌量シ供給ヲ受ク可キ日時ヲ豫定シテ徵發書ヲ出ス可シ

第三條 徵發書ノ書式ハ附錄第一號ノ例ニ準ス但戰時若クハ事  
變ニ際シテハ電信ヲ以テ徵發スルコトヲ得  
第四條 徵發令第三條第二項及ヒ第三項中ニ掲クル特命司令官  
軍團長師團長艦隊司令長官ハ時機ニ依リ其部下ノ各團長若ク  
ハ各艦隊司令官ニ徵發書ヲ出スノ權ヲ分任スルコトヲ得  
第五條 徵發令第三條第二項中ニ掲クル特命司令官軍團長師團  
長旅團長分遣隊長第三項中ニ掲クル特命司令官艦隊司令長官  
艦隊司令官分遣艦隊長ハ其獨立中ニ限リ徵發書ヲ出スノ權ヲ有  
ス故ニ師團長艦隊司令官ト雖モ軍團若クハ二艦隊以上ニ編制  
セラレタルトキハ徵發書ヲ出スノ權ナシ其軍團長若クハ艦隊  
司令長官ノミ之ヲ有ス  
第六條 徵發令第三條第二項中ニ掲クル演習及ヒ行軍ノ軍隊長  
トハ諸團隊ヲ統フル長<sub>以上</sub>ヲ言ヒ第三項中ニ掲クル操練及ヒ  
航海ノ艦隊司令官トハ諸艦ヲ統フル長ヲ言ヒ艦長トハ先任艦  
長又ハ獨立艦長ヲ言フモノニシテ其長ノミ徵發書ヲ出スノ權  
ヲ有ス但陸軍演習若クハ海軍操練ノ時一ノ總指揮官ヲ置クト  
雖モ其部下ノ團隊若クハ各艦往返發著ノ地ヲ異ニスルトキハ  
往返中ニ限リ其團隊長若クハ艦長各自ニ徵發書ヲ出スノ權ヲ  
有ス  
第七條 徵發ニ應シタル人員ハ勉メテ彈丸ノ達セサル場處ニ於  
テ之ヲ使用ス可シ  
第八條 徵發物件其徵發ヲ課セラレタル地ニ現在スルモ其所有

者又ハ其支配人不在ナルトキハ戸長及ヒ證人二人住其町内ニ  
又ハ預リ主又ハ同物品營業者立會ノ上其物件ヲ調査シ供給セ  
シムヘシ

第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ徵發令第十二條第六項第七  
項第八項第十三條第一項中造船所工作所第四項第五項ノ物件  
及ヒ第二十條ノ場合ヲ除クノ外其現在ノ所有品ヲ供給セサル  
モ便宜ニ從ヒ他ノ同品種ノモノヲ以テ換給スルコトヲ得其徵  
發ニ應ヌ可キ人員亦同シ

第十條 徵發書ハ徵發令第六條ニ依リ府知事縣令郡區長戸長若  
クハ停車場船會社ノ店長ニ付ス可シト雖モ臨戰若クハ合  
團ノ地ニ在テ時機切迫セタル場合ニ於テハ府縣ニ付ス可キモ  
ノチ郡區又ハ町村ニ付シ郡區ニ付ス可キモノヲ町村ニ付シ店  
長ニ付ス可キモノヲ船長ニ付スルコトアル可シ

右ノ手續ヲモ爲ス能ハサル場合ニ於テハ徵發書ヲ出スノ權ア  
ル官憲ヨリ直ニ人民ニ賦課シテ徵發スルコトアル可シ但此場  
合ニ於テハ徵發書ヲ用ヒス本人ニ受領證票ヲ交付スルニ止ル  
本條ノ場合ニ於テハ徵發ヲ行ヒタル官憲定例ノ順序ニ從ヒ府  
知事縣令郡區長戸長若クハ店長ニ其旨ヲ通知ス可シ

第十一條 徵發ノ命令ヲ受ケタルモノハ晝夜ヲ別クス速ニ其處  
置ヲ爲ス可シ

第十二條 徵發書ヲ受ケタル徵發區ニ於テ賦課ノ數ニ不足スル  
トキハ速ニ供給ヲ受ク可キ官憲ニ報告スヘシ

町村ニシテ郡區長ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケ郡區ヨシテ府知事縣  
令ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケタルトキ其賦課ノ數ニ滿ル能ハサル  
ニ於テハ戸長ハ郡區長ニ郡區長ハ府知事縣令ニ速ニ其旨ヲ報  
告ス可シ但此場合ニ於テハ陸海軍官憲若クハ府縣廳郡區役所  
ヨリ吏員ヲ派出シ検査セシムルコトアル可シ

郡區長府知事縣令具報告ヲ受ケタルトキハ郡區長ハ他ノ町村  
ニ府知事縣令ハ他ノ郡區ニ賦課シテ供給ヲ完全セシム可シ

第十三條 府知事縣令徵發令第十二條第一項ニ係ル徵發書ヲ受  
ケタルトキハ速ニ其賦課シタル郡區ノ名及ヒ量數ヲ陸海軍官  
憲ニ報告ス可シ

第十四條 府知事縣令郡區長及ヒ戸長ハ徵發令第八條ニ從ヒ徵  
發ニ應スル便宜ノ方法ヲ豫定ス可シ

第十五條 徵發ヲ課セラレタルモノノ供給ノ時期ニ違ヒタルトキ  
ハ徵發令第九條ニ照シ處分ス可シト雖モ正當ノ事由ヲ證明シ  
タルトキハ辨償セシムルノ限ニアラス

第十六條 徵發令第十一條ニ掲クル受領證票ハ附錄第二號雛形  
ニ依リ調製ス可シ

第十七條 受領證票ハ徵發令第十二條第一項第五項ノ物件及ヒ  
總テ買上ケニ屬スル物件ニ係ルトキハ領收ノ際直ニ之ヲ交付  
シ其他ハ徵發令後之ヲ交付ス可シ但徵發令後交付スル場  
合ニ於テハ同令第十二條第四項第七項第八項第十三條第一項  
中造船所工作所第四項及ヒ第五項ニ掲クルモノヲ除クノ外當

初領收ノ際假受領證ヲ交付ス可シ

第十八條 徵發令第十二條第二項第三項及第十三條第二項ニ揭クルモノヲ宿泊セシメテ連日使用シ若クハ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキ並ニ同令第十二條第六項ニ揭クルモノノ除キ船橋ヲ借切トシテ使用スルトキハ特ニ本人若クハ探業者ニ受領證票ヲ交付スルコトアル可シ

第十九條 徵用十五日以上ニ及ブモノハ一個月ニ一回若クハ二回期ヲ定メテ受領證票ヲ交付ス可シ

第二十條 徵發令第十二條第一項ニ掲クルモノ、徵發ヲ賦課スルハ其物品ノ營業者ヲ先トシ尙ホ完全セサルキニ限り他ノ人民ニ賦課ス可シ其賦課ニ就テハ其地方及ヒ所有者ヲシテ困乏ニ陥ヒラサラシムル爲メニ相當ノ分量ヲ各所有者ノ許ニ殘シ置ク可シ其分量ハ其地運送ノ便否及ヒ生計ノ現況ヲ酌量シテ之ヲ定ム可シト雖モ此ニ其最下限ヲ定ムルコト左ノ如シ  
一 營業者所有ノ物品ハ徵發書ノ日付ヨリ前十日間ニ其府縣内ニ賣拂ヒタル量但所有者ノ帳簿ニ基キ算定ス可シ  
二 他ノ人民所有ノ物品ハ其一家ニ要スル十日間ノ量  
三 秣莩ハ其家畜ニ要スル七日間ノ量

第二十一條 郡區長ハ附錄第三號一ノ離形ニ依リ徵發物件表ヲ製シ之ヲ府縣廳ニ差出スヘシ(十九年附令第十號ヲ以テ改正)

第二十二條 (十九年附令第十號ヲ以テ改正)

第二十三條 (十九年附令第十號ヲ以テ改正)

第二十四條 府知事縣令ハ附錄第三號二三ノ離形ニ依リ徵發物件表ヲ製シ郡區長ヨリ差出シタル表ト共ニ毎年三月三十一日限リ陸軍省ヘ送付スヘシ(十九年附令第十號ヲ以テ改正)

第二十五條 北海道廳長官府縣知事ハ附錄第四號一二三第五號一二ノ離形ニ依リ西洋形船舶器械製造修履場表日本式西洋式鑄造場表旋盤三臺以上裝置鐵工場表船舶表汽船表ヲ製シ毎年三月三十一日限リ海軍省ヘ送付スヘシ但其管内ニ於テ新タニ構造シ若クハ買入タル汽船アル時ハ第五號三ノ離形ニ依リ汽船表ヲ製シ其時々同省ヘ送付スヘシ(十九年附令第二十號ヲ以テ改正)

第二十六條 徵發令第十二條第二項第六項第七項ニ掲クルモノハ總テ使用ノ爲メニ必用ナル屬具ヲ併セテ供給ス可キモノトス故ニ其屬具ニ對スル賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十七條 徵發令第十二條第六項ニ掲クル船舶中郵便船ニ限リ其通信ノ用ニ供スル間ハ之ヲ借切ルコトヲ得ス又出船ノ定期若クハ航路ヲ變シテ徵用スルコトヲ得ス

第二十八條 徵發令第十八條中居住者ノ起臥ニ必要ナル場所トハ寢所及ヒ庖厨ヲ指シ營業ニ必要ナル場所トハ商估ノ店舖農工ノ仕事場ヲ言フ又旅店等トハ料理店貸坐敷貸厩等ヲ包含ス  
第二十九條 宿舍ノ廣狹ハ徵發令第十九條ニ從ヒ臨時ニ定ムルモノナリト雖モ戶長ニ於テ賦課ノ際標準ト爲ス可キモノヲ概定スルコト左ノ如シ

一 廩署 陸海軍官憲ヨリ指示スル

三 將官其參謀部ト共ニ 所ノ室若クハ家屋  
 一家屋  
 四 上長官又ハ同等軍屬一名 一室  
 五 士官又ハ同等軍屬二名 一室  
 六 下士又ハ同等軍屬一名 一疊半乃至二疊  
 七 卒又ハ同等軍屬一名 一疊乃至一疊半  
 八 徵發ニ應シタル人員三名 二疊  
 第三十條 戶長ハ陸海軍ノ宿割主任官ニ商議シテ適宜ニ宿舍ノ配當ヲ定ム可シ

第三十一條 徵發令第二十一條ニ從ヒ町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルコトヲ許サスト雖モ若シ該家ニ病者死者等アルトキハ戶長他ニ相當ノ宿舍ヲ設ケテ轉移ヲ請求スルコトヲ得但之カ爲メ徵發令第二十二條ニ掲クル日限ヲ更新スルモノニアラス

第三十二條 徵發令第二十二條ニ從ヒ人馬ニ供給ス可キ食飼ノ定量大率ヲ左ノ如シト雖モ陸海軍給與ノ規則ニ由リ定量以內ヲ以テ臨時ニ變換或ハ減少スルコトアル可シ

一 人 精米每食二合 朝夕飯一汁一菜漬物 午飯一菜漬物  
 二 馬 駐軍中 朝大麥二升秣藪五百目 喰藪百五十目 糞秣藪五百目 喰藪百五十目 夕大麥二升秣藪五百目 喰藪二百目

演習及ヒ行軍中 朝大麥二升秣藪五百目 糞大麥一

升 夕大麥二升秣藪一貫目 喰藪五百目  
 小麥ヲ大麥ニ喰藪ヲ秣藪ニ代用スルトキ 朝小麥一升 喰藪一貫目 糞小麥五合 夕小麥一升五合 喰藪二貫目

糞藪又ハ裸麥ヲ大麥ニ喰藪ヲ秣藪ニ代用スルトキ 朝糞藪又ハ裸麥一升 喰藪一貫目 糞糞藪又ハ裸麥一升 夕糞藪又ハ裸麥二升 喰藪一貫目

糞藪ハ軍馬一頭ニ付一日一貫目ヲ要スルモノトス

第三十三條 宿舍ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ室内所要ノ燈火並ニ其地ノ慣用ニ從ヒ地爐若クハ火鉢薪炭ニ每室ニ一個ヲ給ス可シ其賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含ス

第三十四條 寢具ノ徵發ニ係ル賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含セズ徵發令第四十八條ニ從ヒ賠償ス

第三十五條 宿舍ノ徵發ヲ課セラレタルモノ公有家屋社寺亦同シ食飼ニ供ス可キ物品又ハ手傳人不足シ供給ヲ爲シ能ハサルノ證アルトキハ戶長ニ於テ賄ノ受負ヲ立ツル歟若クハ物品及ヒ手傳人ヲ其本人ニ供スル等ノ取扱ヲ爲シ其方法ハ本條例第十四條ニ准ス可シ

第三十六條 町村ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乘載人馬ニ要スル食飼ノ物品不足スルトキハ戶長ニ於テ其物品ヲ供ス可シ但航海先ニ於テハ本條例第三十七條ニ准シテ處分ス可シ

第三十七條 會社ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乘載人馬ノ食

飼ヲ供給スルコト能ハサルヲ證明スルトキハ現品ヲ官給シ其費用ハ賠償金ヲ以テ差引キ立ツ可シ

第三十八條 食飼ノ定質ナキ船舶ヲ徵用シ船主船長ヲシテ其食飼ヲ供給セシムルトキハ陸海軍官憲ニ於テ其時々賠償金額ヲ定ム可シ其借切トシテ徵用シタルトキ亦同シ

第三十九條 徵發物件ノ差出場所ハ各徵發區内ニ設クルヲ定例トス但府縣ヲ以テ徵發區ト爲スモノハ差出場所ハ賦課セラレタル郡區ニ一個所若クハ二個所ヲ設ク可シ

差出場所ハ陸海軍官憲之ヲ指定ス

第四十條 徵發區ハ徵發令第三十條ニ從ヒ徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルノ義務アルヲ以テ之カ爲メニ生シタル費用ハ其區ハ負擔トス可キモノトス

第四十一條 郡區長ハ徵發人馬ノ供給ヲ便宜ニセソカ爲メ豫テ隣郡區長ト商議シ近傍町村ヲ適宜ニ割合ヒ組合町村ヲ定ムルヲ得

第四十二條 賠償金請求ノ月日及ヒ場所ハ供給ヲ受ケシ陸海軍官憲ヨリ之ヲ其府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ指示ス可シ

第四十三條 府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ附錄第六號ノ例ニ准シ賠償金計算書ヲ調製シ陸海軍官憲ヨリ交付ノ受領票ヲ添ヘ其請求ヲ爲ス可シ但徵發令第三十六條及ヒ第三十八條ニ掲クルモノアルトキハ其計算書ニ別

項ヲ設ケテ差引キ立ツ可シ又評價ニ屬スル件目ノ賠償ハ別途ニ支給スルヲ以テ該件目ニ就テハ評價ノ二字ヲ記載ス可シ

第四十四條 徵發令第三十一條ニ定ムル三個月ノ期限ハ受領票ヲ交付シタル月ヨリ起算ス但陸海軍官憲ヨリ指示セシ請求ノ月日若クハ場所ヲ其請求者ニ於テ誤リタル爲メ又ハ賠償金計算書ノ違算若クハ不恰式ニ依リ推問往復ノ爲メニ消費シタル時日ハ算入セス

第四十五條 徵發令第十二條第二項及ヒ第三項ノ徵發ニ係ルモノヲ終日若クハ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ使用スルトキハ日割ヲ以テ賠償シ其他ノ場合ニ於テハ里程ニ應シテ賠償ス

若シ差出場所ニ集合シタルモノ官ノ都合ニテ不用トナリタルトキハ日割ヲ以テ賠償ス可キモノハ半日分ヲ給シ里程ニ應シテ賠償ス可キモノハ其半額ヲ給ス

第四十六條 徵發物件ノ毀損シタルトキハ徵發令第三十三條ニ從ヒ其使用ヲ主管スル陸海軍官憲ニ届出可シ若シ引渡ヲ受ケタル後毀損ヲ發見セシトキハ其引渡ヲ爲セシ陸海軍官憲ニ届出可シ其官憲既ニ届出シタル戸長ニ届出可キモノトス

第四十七條 毀損ノ届出ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ直ニ之ヲ調査シ其毀損果シテ使用ヨリ生シタルモノト檢定シタルトキハ其賠償金額ニ就キ供給者ト商議ス可シ若シ調和セサルトキハ評價委員ニ付ス可シ

戶長若シ毀損ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ検査シ其調査書ヲ作リ供給者ノ請求金額ヲ其關係ノ陸海軍官憲ニ差出ス可シ但調査書ニハ毀損ノ事由實況並ニ請求金額ニ係ル自己ノ意見ヲ記ス可シ

第四十八條 徵發令第三十三條ニ掲クル期日ヲ超エタル届出ハ之ヲ受理ス可カラス但變災厄難ニ罹リタルノ確證アルモノハ其變災厄難ヲ免レタル時ヨリ期日ヲ算ス可シ

第四十九條 徵發令第三十四條ニ從ヒ府知事縣令ハ其管下市場三ヶ所以上ノ前三年間ノ平均價表ヲ第七號雛形ニ依リ調製シ毎年三月三十一日限リ陸軍省ニ差出スヘシ

第五十條 徵發令第三十五條中平常ノ賃價トアルハ戰時若クハ事變ニ際シテハ勿論演習又ハ行軍ノ際ニ於テモ之カ爲メ臨時ニ騰貴セサル以前ノ賃價ヲ言フ

第五十一條 徵發令第三十五條及ヒ第三十八條ニ掲クル平常ノ賃價雇賃借賃ハ郡區長確認ノ上供給ヲ受クル所ノ陸海軍官憲ニ申出可シ

其他徵發令中ニ掲クル平常ノ賃價損料及ヒ代價ハ戶長ヨリ陸海軍官憲ニ申出シ

第五十二條 徵發令第三十九條ニ從ヒ陸海軍省ニ於テ定ム可キ所ノ賠償金ハ兩省同額タル可シト雖モ本條例第三十二條ニ從ヒ臨時ニ食飼ノ定量ヲ變換若クハ減少スルニ於テハ其現量ニ

從ヒ賠償ス可シ

第五十三條 徵發令第四十二條中航泊實費トハ石炭油脂其他日用消耗品ノ航泊中現ニ消耗シタルモノ、代價ニシテ其物品ヲ船舶ニ積入レタルトキノ現價ニ依リ計算ス可キモノトス

第五十四條 徵發物件ノ毀損其使用ノ爲メニ非サルモノ及ヒ操業者ノ過失ニ出ルモノハ賠償セス但船舶ヲ借切トシテ徵用シタルトキ並ニ物件ヲ操業者ト分別シテ徵用シタルトキノ毀損ハ總テ之ヲ賠償ス

第五十五條 評價委員ハ陸軍若クハ海軍官憲二名徵發區ニ從ヒ府縣郡區吏員若クハ戶長一名及ヒ其町村評價所ノ住民ニシテ其事件ニ熟達シタルモノ町村ノ住民ヲ用ユルモ妨ケナシ他二名若クハ四名ヲ以テ編制シ其評價ハ多數ニ依テ決ス

鐵道會社船舶會社ニ屬スルモノ及ヒ大演習ノ爲メニ生シタル地所ノ損害ニ係ル評價委員ハ陸軍若クハ海軍官憲二名府縣吏員一名及ヒ其事件ニ熟達シタル人民二名若クハ四名ヲ以テ編制ス

第五十六條 評價委員ニ擧用ス可キ人民ハ其事件ニ關係ナキモノニシテ地方吏員若クハ戶長ニ於テ擧舉ス可キモノトス

其擧舉セラレタルモノハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルヲ得ス

第五十七條 其擧舉セラレタルモノニハ陸軍若クハ海軍ヨリ該府縣會議員ト同一ノ旅費日當ヲ給ス可シ





備考 徵發書ノ料紙ハ美濃野紙ナル可シ  
附録第一號ノ二

徵發書

一人夫 幾人  
右内

幾人ハ某月某日時某地ニ差出シ某地迄徵用  
幾人ハ某月某日某所ニ差出シ幾日間徵用

幾匹馬士共

一駄馬

右内 幾匹

幾匹

一何々

右内

一何々

右内

何、

何、

前書ノ通徵用候條其郡(區)ニ於テ遲滞ナク供給可致事

年 月 日

某府(縣)

某郡(區)役所宛

何々長

官姓名印

附録第一號ノ三甲

徵發書

一漁船

一西洋風帆船

右某月某日ヨリ借切徵用候條某港ニ於テ遲滞ナク供給可致事

年 月 日

某會社某地店長宛

何々長  
官姓名印

附録第一號ノ三乙

徵發書

一將校並同等官

一下士卒並同等

一馬

一車

一荷物零計

右ハ某月某日某港出帆ノ何號船ヲ徵用シ(又ハ其社所有ノ何號船  
ヲ徵用シ某月某日某港出帆某港ニ運送爲致候條遲滞ナク供給可  
致事

何々長

年月日

某會社某地店長宛

官姓名印

附錄 第一號ノ四  
徵發書

一上等

幾名内幾名ハ某地迄餘ハ某地迄

一中等

幾名内、、、

一下等

幾名内、、、

一馬

幾匹内幾匹ハ某地迄餘ハ某地迄

一車

幾輛内幾輛ハ、、、

一荷物略計  
右ハ通常特別派車ヲ徵用シ某月某日時發車ヲ以テ某地へ運送候條遲滞ナシ供給可致事

何々長  
官姓名印

鐵道會社某地停車場長宛

附錄 第一號ノ五

一立米

幾百石

徵發書

年月日

某府(縣)宛

官姓名印

附錄 第一號ノ六

徵發書

一某府(縣)某郡(區)某町(村)近傍  
右某月某日演習ノ爲メ徵用候事

何々長

官姓名印

某町(村)戸長役場宛

附錄 第二號ノ一

受領證票

一宿舍麻器用人 將官幾人 上長官幾人  
右ハ某月某日ヨリ某月某日迄徵用  
一厩園

幾匹分

徵發令

右、

一倉庫

幾坪

右、

一解船

幾艘

右、

一何々

右、

前書ノ通徴用候也

何々長

官姓名印

年月日

某府縣某郡(區)

某町(村)戸長役場宛

備考 受領證票ハ總テ存留証票ノ式タル可シ

附錄 第三號ノ二

受領證票

一人夫

幾人

右丙

幾人ハ某月某日時某地ニ差出シ某地迄徴用

幾人ハ某月某日時某所ニ差出シ幾日間徴用

一駄馬

幾匹馬士共

欠

MISSING

十九年附錄第三號及第十一號ヲ以テ  
七號形ヲ改正シ第四號  
同形ヲ刪除ス  
同形ヲ刪除ス  
同形ヲ刪除ス  
同形ヲ刪除ス  
同形ヲ刪除ス  
同形ヲ刪除ス  
同形ヲ刪除ス  
同形ヲ刪除ス  
同形ヲ刪除ス

一車 幾輛内幾輛ハ、  
一荷物略計 幾輛内幾輛ハ、  
右ハ某月某日時通常(特別)運車徵用  
前書ノ通徵用候也

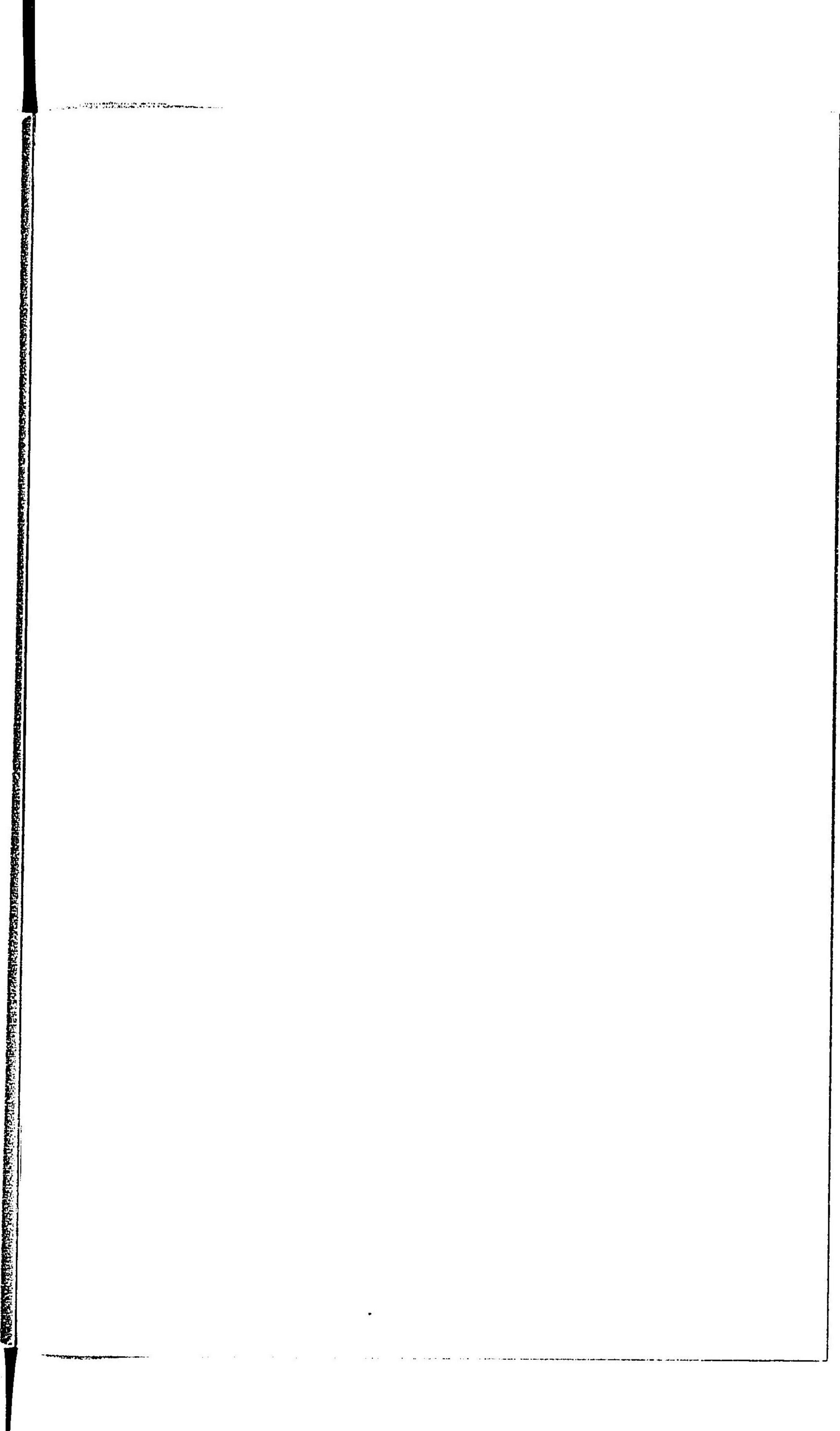
年月日 何々長 官姓名印  
鐵道會社某地停車場長宛

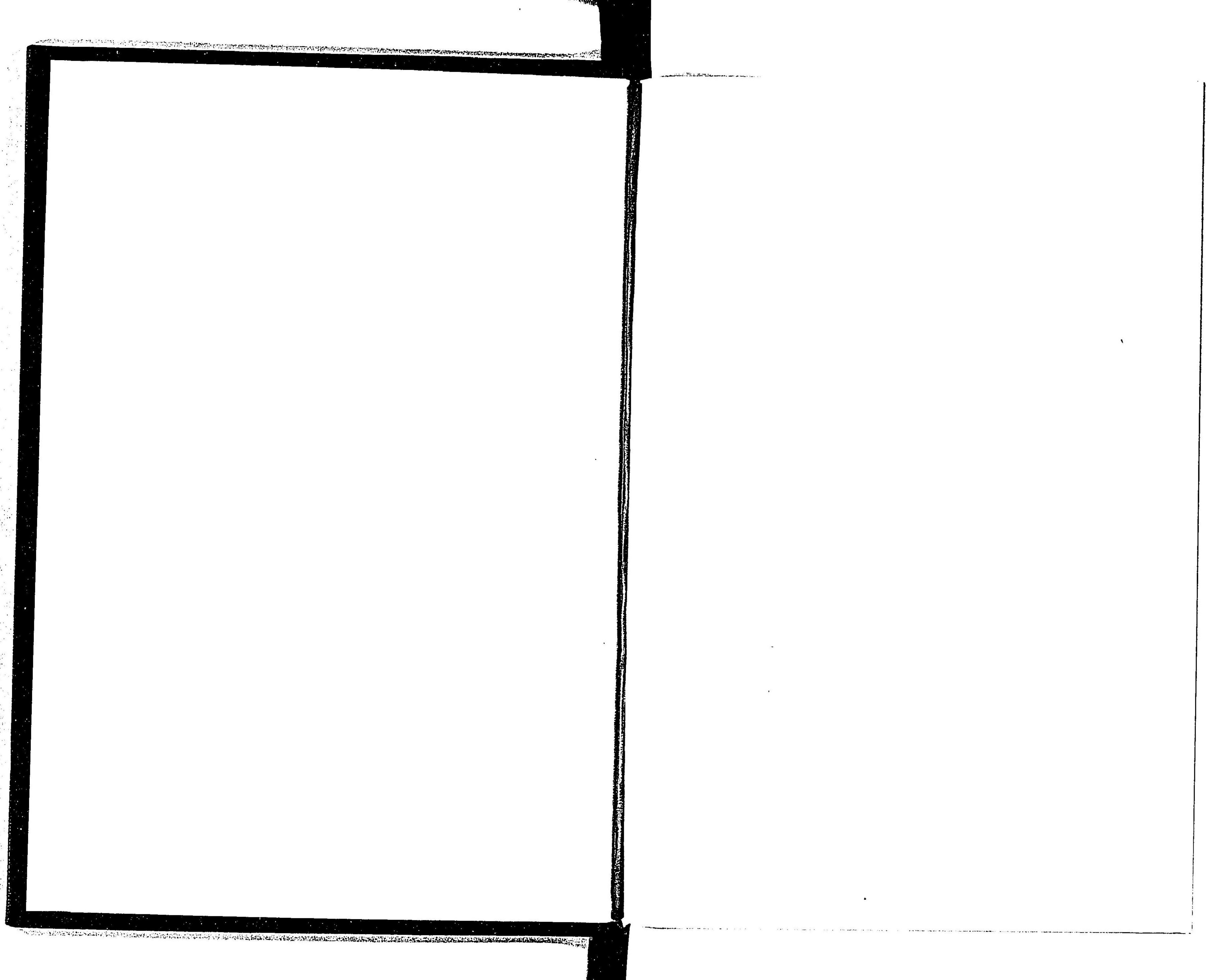
附錄 第二號ノ五  
受領證票  
一玄米 幾百石  
一精米 幾拾石  
一薪 幾貫目  
一何々  
一何々

前書ノ通徵用候也 何々長 官姓名印  
年月日

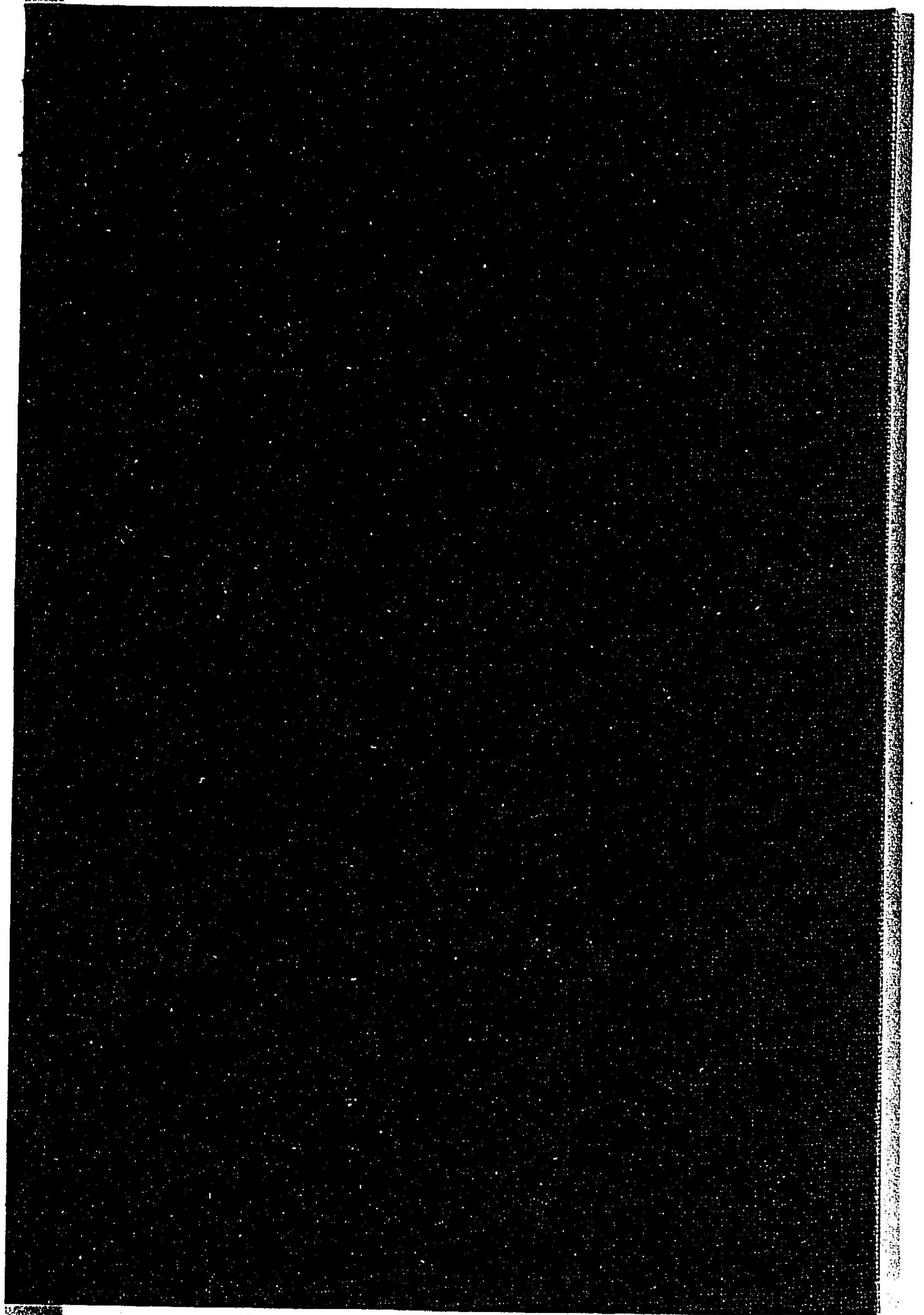
某府縣宛  
(附錄第三號ヨリ第七號迄略之)

法規提要中卷終









禁電子式複写

031113-005-8

CZ-3-09

法規提要

法制局

M18-36

BBC-0823

